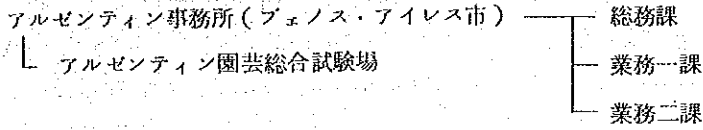


アルゼンティン共和国
IV アルゼンティン事務所

アルゼンティン共和国

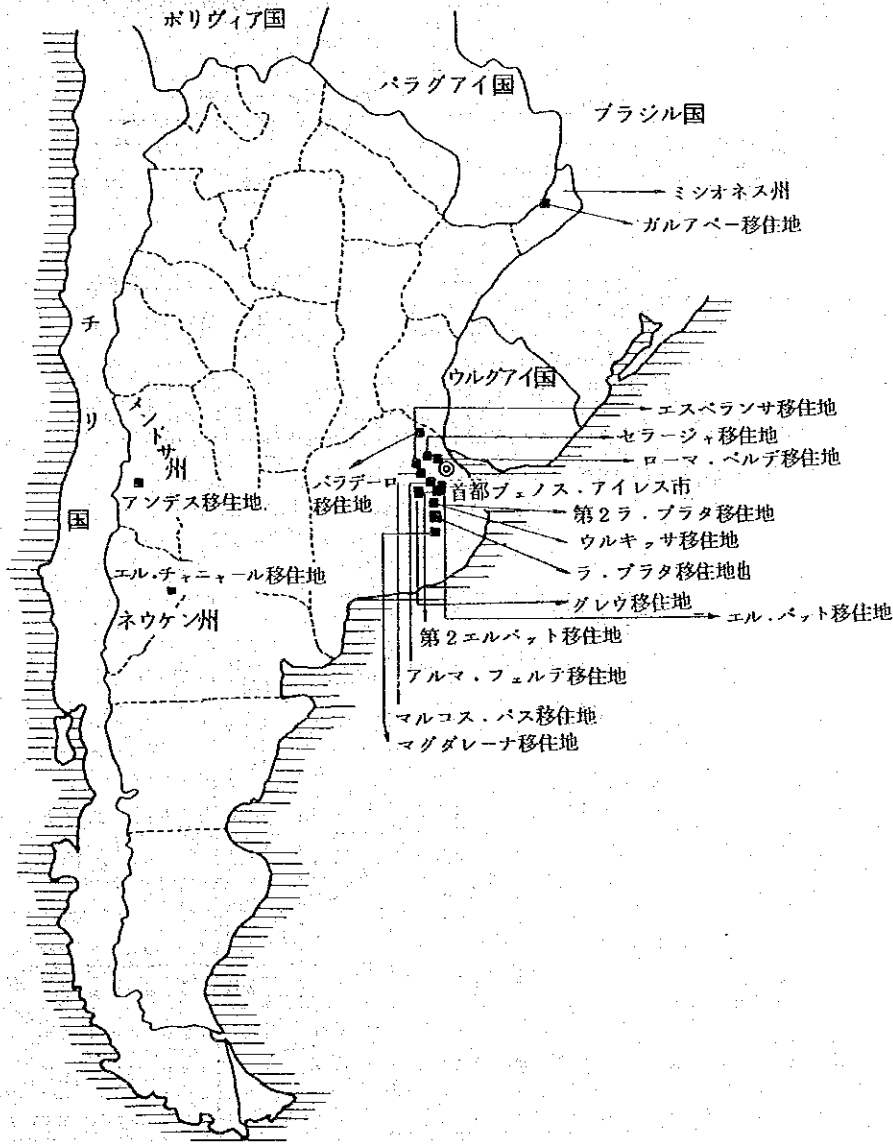
Ⅳ アルゼンティン事務所

事務所機構



管 轄

アルゼンティン国全域



1. アルゼンティン国の基礎指標

首都 ブエノス・アイレス

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
2,791,810 km	1816.7.9	立憲共和制	カトリック (国教)	スペイン語	ラテン系ヨーロッパ人種 (主としてスペイン、 イタリア系子孫)	AUSTRAL

1. 人口、人口密度・人口増加率

年度※	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
人口											
人口(千人)	27,947	29,663	29,086	29,505	29,921	30,331	30,937	31,137	31,334	31,929	32,322
人口密度	10.0					10.9					11.6
人口増加率			14.3							12.71	

出典：ア国統計局資料(予想数字)
(1991年5月15日国勢調査実施)

※ 1991年国勢調査による

2. 国民所得

所得	1985	1986	1987	備考
国民総所得	65,080	73,108	74,490	百万ドル
1人当り国民所得	2,130	2,360	2,370	ドル

出典：World World Bank Atlas

3. 国内総生産

(単位：アウストラール)

区分	1987			1988			1989		
	金額	成長率	構成比(%)	金額	成長率	構成比(%)	金額	成長率	構成比(%)
農・牧・水産業	1,415.2	2.9	14.6	1,409.3	△ 0.4	14.9	1,375.9	△ 2.4	15.3
鉱業	232.7	0.2	2.4	255.0	9.6	7.7	263.2	3.2	2.9
製造工業	2,271.5	△ 0.5	23.4	2,117.5	△ 6.8	32.5	1,969.2	△ 7.0	21.8
建設業	357.1	14.7	3.7	305.4	△ 14.5	3.3	209.0	△ 31.6	2.5
電気・ガス・水道	475.8	6.1	4.9	498.9	4.9	5.3	492.2	△ 1.3	5.5
運輸・倉庫・通信	1,129.7	2.6	11.7	1,098.4	△ 2.8	11.6	1,065.2	△ 3.0	11.8
商業・レストラン・ホテル業	1,389.5	1.4	14.4	1,301.9	△ 6.9	13.8	1,196.6	△ 8.1	13.3
金融・保険・不動産業	768.9	2.9	7.9	768.3	△ 0.6	8.1	745.5	△ 2.5	8.3
サービス業	1,651.3	2.2	17.0	1,678.7	1.7	17.8	1,198.5	1.2	18.8
合計	9,691.8	2.2	100.0	9,429.4	△ 2.7	100.0	9,015.3	△ 4.4	100.0

出典：ア國中銀資料

4. 輸出入構成(単位:百万\$)

区分		年度	1988	1989	1990
輸 出	植 物 産 品		1,867	1,573	91
	食料, 飲料,嗜好品		1,953	1,928	153
	動物及び同産品		741	917	115
	織物及び同製品		511	452	36
	皮革類及び同製品		444	439	58
	油 脂 類		921	876	91
	そ の 他		2,697	3,395	440
計			9,134	9,580	984
輸 入	機械, 器具類		1,514	1,081	95
	鉱物産品		651	558	64
	化学製品		1,115	1,084	133
	金属及び同製品		676	399	32
	車輛, 船舶, 航空機等		245	243	38
	製紙原料及び紙		103	67	11
	そ の 他		1,017	773	109
計			5,321	4,205	482

出典: 了国統計局資料

5. 物価上昇率(前年対比)

物価	年度	1981	1982	1983	1984	1985	1986
卸売物価		180.1	311.0	410.6	624.0	363.9	578
消費者物価		131.3	209.7	433.7	688.0	385.4	81.9
物価	年度	1987	1988	1989	1990		
卸売物価		181.6	431.6	5,386.4	800.4		
消費者物価		174.8	387.7	4,923.6	1,343.9		

出典: 了国統計局資料

2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史

ア国への日本人移住者は明治一大正期はわずか1,300人で、昭和初期から盛んになり、1941年までに約4,000人に達し、合計5,300人(内沖縄県人約2,800人)で、1940年当時の在留邦人は2世を含めて約7,000人に達している。当時は独身男子が圧倒的に多く成年男女の比率は3:1であった。

ア国への移住者は、ブラジルの契約移民と異なり、アンデス越えのペルー移民の流れや、故星清蔵氏(福島県出身、果樹園経営、1908年笠戸丸移民の転住)などブラジルからの転住者、及び日本からの直接の自由移民(渡航費の補助なし)や外務省海外実習生(1935年~41年に116人)などであった。その中には、故伊藤清蔵博士(牧場主、山形県出身、1910着亜)のような海外雄飛や牧場経営のロマンを求めた青年達もあったが、大半は出稼ぎ移住であった。又、大正期までの初期移民の転業は外人の農場の園長や、工場の労働者、家庭奉公、庭番、食堂や洗濯屋の下働きなどが大部分であった。大正中期になって小金を貯めると、とりつき易くて日銭が入る職業として先ず洗濯屋、コーヒー店を始める者や、野菜栽培として独立した。蔬菜栽培の先駆者は故石川倉次郎氏(1910年着亜、茨城県出身)であった。次いで昭和初期になると、故高市茂氏(1916年着亜、愛媛県出身)や賀集九平氏(1918年着亜、北海道出身)などの先覚者の指導もあり、花卉栽培者として独立する者がふえた。又、これらの中には、旧制中学や農学校卒業のインテリも多く、その大半はブエノス市及びその近郊60km圏内に集中して居住していた。ブラジルのような海外興業会社やブラジル拓殖組合などの植民団体もなく、又日本政府の特別の援助もなく自らの手で、蔬菜(1923年)、洗染業(1929年)及び花卉(1933年)など夫々の同業組合を作り、頼母子講によって相互に助け合いながら試行錯誤をくりかえし苦難の道を開いてきたのである。1940年頃になると今日のような洗染業と花卉及び蔬菜栽培を主とする日系社会の職業分布の基礎が形成されたといわれている。

ア国は1944年1月になって漸く日独と断交し1945年3月宣戦布告し第2次大戦に参加したが、行動制限や日本人学校の閉鎖位で日本人は不安の中にも食料にも恵まれ、抑留などの特別な迫害は受けてなかった。母国の敗戦により、戦前組は永住の意志を固め定住するようになった。

1948年にはブラジルにさきがけて、呼寄移住が再開され、神奈川県実習生移住も始められた。1953年10月ア国拓殖協同組合が設立され、400戸の導入許可取得に伴ない、ガルアペー、アンデス移住地への計画移住も始まり、次いで海外実習生や花卉雇用青年を含めて現在まで約5,800人(内、沖縄県人約800人)が日本から直接移住している。

また、戦後隣接国へ移住した人の中で、1965年頃からア国への転住が増え「亜拓扱い」分のみでも次のとおりである。

パラグアイ	226件	769人
ボリヴィア	179件	368人
ブラジル	25件	60人
計	430件	1,197人

この他に、旅行業者扱いによる転住者が、推定1,000人位あると思われ、戦後移住者総数は約9,700人と推定される。現在においても日本人については、その勤勉性と犯罪の少ないことを評価し一定の技術、資本を有する者については、受入れを歓迎している。

アルゼンチン在留邦人及び日系人数統計

総数(1+2)			1. 長期滞在者			2. 永住者 (日本国籍保有者)			3. 日系人		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6,805	5,858	12,663	307	218	525	6,498	5,640	12,138			17,800

出典：1990年度海外在留邦人数調査統計(外務省領事移住部発行)より抜粋

3. 移住地所在地域の概要

(1) ミシオネス州の概要

州移 内住 地	ガルアペー移住地
概	<p>ミシオネス州はアルゼンチンの最北東に位置する。</p> <p>面積は29,801km²で九州の7割(四国の1.5倍に当る)。人口58.9万人で平方キロ当りの人口密度は18.0人である。</p> <p>地形は丘陵状の起伏の多い南西から北東に細長く伸びる地形である。北側はアルト・パラナ河(ブラジル領内を流れるパラナ河の下流)によってパラグアイと境を接し、南側はウルグアイ河によってブラジル国パラナ州と接している。ミシオネス州の中央部(丁度アルト・パラナ河とウルグアイ河とから等距離の所)は山の背にあたり、パラグアイ、ブラジルの両国を眺めることができる箇所も少なくない。標高は最低200m、最高600mである。</p> <p>地質的には主として玄武岩台地で、土壌は主としてその風化したティェラ・コロラド(テェラ・ロジャ)である。しかしパラグアイ南部やブラジル国の北部パラナ州のテェラ・ロジャに比して酸性化しているのが多い。特に中央高地の土壌に甚しい。</p>
要	<p>気象は一般に亜熱帯に属し、内陸に入っているため温度日較差の大きい大陸性気候である。夏期の温度はさして寝ぎ難いものでないが、夜間は大変涼しい。冬期は地形の低い窪地に霜を見ることもあるが日中は相当暖くなる。雨量は年間1,600~2,200mmで、ブエノス・アイレス州などの湿潤パンパ地帯の600~1,000mmに比較しても、また、アルゼンチン全体からみても多雨地帯である。</p>
産	<p>産業は主として林業および農業である。この州はアルゼンチンにおける植林面積の約26%、115,000haを、また、林産物生産量では24%を占めている。この関連企業である製材工場、農産加工場をはじめ、パルプ工場等がある。</p>
業	<p>農業では、マテ茶、紅茶、桐油、オレンジ類等が主に生産されている。</p> <p>畜産物はブエノス・アイレス州を中心とする大パンパに比較すればものの数ではないが割合に盛んである。</p>

州内主要都市	ボサードス市 同州の西端アルト・パラナ河河畔に位置し、対岸にエンカルナシオン市がある。人口は13万人である。
	オベラ市 ボサードス市から約100km、国道14号線上にあり、人口7万人、ミシオネス州第2の都会、農産物（ジェルバ・マテ、紅茶等）の集散地として発展した都市である。

(2) メンドサ州の概要

州移内住地	アンデス移住地
概	メンドサ州はブエノス・アイレス市より西方約1,000km、南緯32°00'より37°60'、西経66°50'より南緯70°55'にあり、面積は148,827Km ² である。チリーとの西境にはアコンカグア山（標高海拔7,035m）を含むアンデス山脈の高峰が連なっており、州都メンドサ市はその麓にある。同州は地形上、南北メンドサに大別され、北部メンドサの中心はメンドサ市である。南部メンドサの中心はサン・ラファエル市およびヘネラル・アルベアル市となっている。
要	気候は四季に大別でき、平均気温はだいたい東京付近と同じで年16℃位であるが夏季には最高42℃、冬期は降霜もあり最低マイナス9℃を記録したこともある。年間降雨量は200mm前後で近年少しづつ多くなっている。これは最近アンデス山麓に建設された人工湖（4ヶ所）の影響によると思われる。 人口は約119.6万人、スペイン人（混血を含む）が最も多く、次いでイタリア人、フランス人、ドイツ人など、ヨーロッパ人種で人口の大部分を占め、商業にはトルコ人も多い。
産業	（農業） 豊かな日照と地味により、果樹、蔬菜栽培が盛んで、北米のカリフォルニア州と気候、風土、農作物、灌漑農業等類似した点が多く「南米のカリフォルニア」とも称せられている。主な農産物は、果樹については、ブドウ、オリーブ、モモ、スモモ等、蔬菜類については、トマト、ピーマン、たまねぎ等、牧草類ではアルファルファー、大麦、ライ麦等である。これら農産物のうち、ブドウについてはアルゼンティンにおける総生産量355.5万トンのうち、233万トンが同州で産出されており、また、ブドウ酒も多く産する。トマト、ピーマンは全州至るところに缶詰、ジュースの加工工場がある。
州内主要都市	ヘネラル・アルベアル市 移住地の東方14kmの地点にあり、サン・ラファエル市と並んで南部メンドサの中心都市となっている。ブエノス・アイレス市からは900km、メンドサ市から320kmで、市の郊外には小飛行場がある。ブエノス・アイレス市との交通には、長距離バスが毎日2回往復しているので便利で

州内主要都市	<p>ある。人口は4.4万人。ヘネラル・アルベアル郡の郡都である。</p> <p>サン・ラファエル市</p> <p>移住地より約100kmの地点にあり、南部メンドサ第一の都会で、人口15万人、鉄道のほか郊外には飛行場があり、ブエノス・アイレス市、メンドサ市方面への定期便がある。サン・ラファエル郡の郡都である。</p> <p>メンドサ市</p> <p>メンドサ州の主都。人口119万人、ブエノス・アイレスから西方へ1,000km余、アンデス山麓標高750mの盆地である。付近の盆地は地味肥沃であるが、気候がきわめて乾燥しているため、メンドサの北20kmのルハン川から水路がひかれ、ブドウ、桃、すももなどの果樹栽培が盛んである。</p>
--------	---

(8) ブエノスアイレス州の概要

州移住内地	<p>エスペランサ、アルマ・フェルテ、ローマ・ベルデ、マルコス・パス、エル・パット、第2エル・パット、セラージャ、ラ・プラタ、グレウ、バラデーロ、第2バラデーロ、第2ラ・プラタ、マグダレーナの各小移住地、ブエノス・アイレス市近郊移住地</p>
概要	<p>ブエノス・アイレス州は、西はバンバ州およびリオ・ネグロ州、南はネグロ川に囲まれている。面積は307,571km²あり、23州のうちで最も大きく、アルゼンティン国土の9%を占めている。人口は、1,378.8万人(1980年)で(アルゼンティン総人口3,010万人)(1985年)州の南端にあるバイア・ブランカ市が工業都市、最大の輸出港として発展しており、石油化学工業等が発達している。今後はこの地域の農産物の一大消費地となることが予測される。</p> <p>ブエノス・アイレス州の農業地帯は、所謂バンバ・ウメダ地帯が大部分で、この外は南部の半乾燥地帯で、この地帯ではコロラド川の水を利用して、70万haの灌漑計画(CORFO)が推進されている。</p> <p>農業の主体は牧畜であるが、灌漑農業地帯では、ピーマン、ジャガイモ、トマト、玉ネギ、ニンニク等の野菜が作付けられている。</p> <p>また、農産加工場も多く、トマト、ピーマンなどの缶詰も多量に生産されており、また、アルファルファの脱水工場も稼働している。</p> <p>農村地帯では、広大な面積であるため過疎が問題で、この地帯に人口を定住させるよう教育が行なわれている。</p>

4. 移住地の概要

(1) ガルアペー移住地

所在地	ミシオネス州リベルタドール・ヘネラル・サン・マルティン郡 GARUHAPE DEPARTAMENTO GRAL. SAN MARTIN PROVINCIA DE MISIONES	
面積	3,110 ha	
経緯	ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は、移住者（戦前約100世帯、戦後約30世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し、かなりの成功をおさめていたことから、亜国拓植協同組合（通称「亜拓」）が1955年Luis M. Garacino氏から220haの土地を購入し、家族ならびに青年呼寄の母体として、実習農場や種苗育成農場の経営をすすめていた処、当地方の広大な土地を所有するGaracino氏は、日本人の勤勉さに目をつけ、同氏の所有土地を日本人に分譲し日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして、亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に、亜拓がアルゼンティン移民局に400家族の導入許可申請を行い、1957年1月11日移民局から400家族の導入許可を取得して（ただし1州80家族導入を限度とする）、移住振興KKが同年8月3日Garacino氏所有の土地の一部3,110haを購入し、80家族の入植を目標とした移住地の造成が開始され、1959年5月日本から第1陣4家族が入植した。 その後、1965年までドミニカからの転住者12世帯を含めて84世帯が入植したが、其後退耕者もあって、現在の定住者は15家族となっている。	
自然環境	地形	アルト・パラナ河畔にあり河に向かってゆるく傾斜している波状丘陵地で標高250~300mである。地区内には小川が多い。
	地質・土壌	母岩は主として玄武岩で、土壌はその風化土壌であるティエラ・コロラド（ティエラ・ロジャ）で極めて肥沃である。所々にトスカといって黄色味を帯びた比較的軽い石混りの土壌地帯もあり、また、アルト・パラナ河畔には砂質の所もある。
	植生及び林相	高さ20mから25mの高木が割合密に生い茂っている原生林であるが有用材は殆んど伐りつくされている。
	気候	雨期、乾期の別は明らかでない。年間降雨量は1,500mm、平均気温は20℃、最高平均気温33.3℃、最低平均気温8.5℃。
社会環境	主要都市への交通手段	ミシオネス州の州都ボサーダス市（人口約15万人）より東北160kmの国道12号線沿いにあり、国道12号線はイグアスへの観光道路で舗装されている。ボサーダス市よりガルアペー間は、1日バスが数便あり所要時間4~5時間である。
	市場	中間市場はボサーダス市、主なる市場はブエノス・アイレス市である。

社 会 環 境	地区内道路 整備状況	幹線は土道である(1981年度事業団により補修工事実施。補修工事費総額1,375.3万円)
	電 化	1974年8月25日電化された(220V)(事業団補助793.5万円)
	飲料水	素掘井戸1.4~1.5mの深さで極めて良質の水を得ることができる。
	公共施設	学校州立86小学校 ガルアペー日語学校 教師2人 生徒22人(1991年4月現在)
	事業団援助 農 協 自治体等	組合事務所兼倉庫 選果工場 公民館

入 植 員 数 (内 地)	年度	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1969	1971	現地入植者
	戸数	10	16	4	13	32	2	9	1	1	19
	人員	53	86	19	59	175	6	27	6	8	60

- (注) (1) 1962年ドミニカ転住者12家族72名を含む。
(2) 現地入植者には社企業(8社)を1戸として管理人1名。
(3) 退耕者ロシテ購入入植1戸を加え計上した。
(4) 分家完全独立1戸6名を加え計上した。

主な出身県名：北海道，熊本，広島，東京，長野，高知

入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	15	73	15
		非居住	-	-	7
		計	15	73	22
現地人		9	-	5	

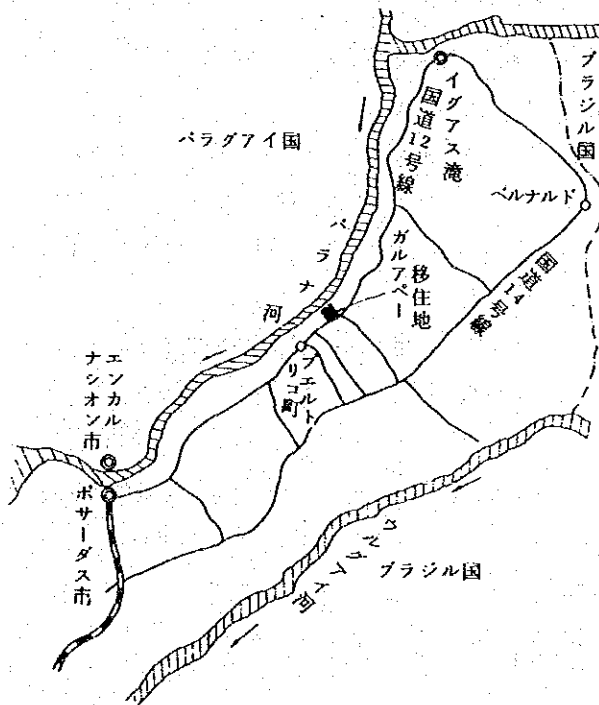
1991年4月1日現在

分 譲 状 況	分譲可能面積	2,993.3ha (99ロッテ)			
	1ロッテ面積	30ha内外			
	分譲条件及び価格	一括払い 521.3千円 分割払頭金 52千円 4年据置 5年賦払 利息1.9%			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路，河川，市街地等	除 地
		分譲完了	公共用地のみ	-	-
地権取得	取得済 93ロッテ 未取得 6ロッテ (1988年3月末現在)				
主 作 目	温州みかん，植林，桃				

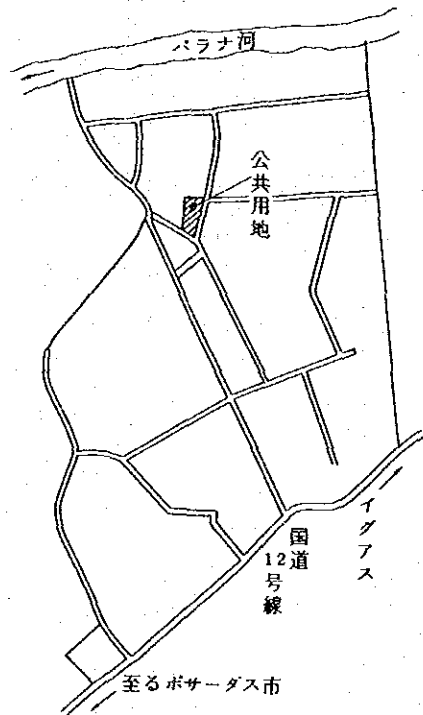
農	形態	温州みかん, 植林, 柿と蔬菜を加えた複合経営。
	農機具普及状況	トラック1.1台 トラクター1.1台 動噴1.0台 他 (1986年度農家経済調査結果)
業	家畜飼育頭数	乳牛(成0.5頭・仔0.2頭), 肉牛(成0.3頭), 豚(成0.3頭・仔0.6頭) (1986年度農家経済調査結果)
	営農支援機関	
	営農指導	INTA(国立農業技術院), 事業団
	金融機関	銀行, 事業団
	主作物販売 取扱機関	ガルアペー農協を通じ, 主にブエノス市であるが, ポサーダス市にも出荷されている。

- 移住地区内日系団体
- ・ガルアペー農協(法定)
 - ・ガルアペー日本人会(法定)

地区略図



移住地略図



(2) アンデス移住地

所在地	メンドサ州サン・ラフェル郡 ANDES DEPARTAMENTO DE SAN RAFAEL, PROVINCIA MENDOZA
面積	1,312ha
経緯	<p>アンデス移住地は、ガルアペー移住地に次いで集団移住地として、旧日本海外移住振興K.K.が1959年5月、メンドサ州アトエルスード地区に1,312haの土地を購入し、亜拓が取得した日本人移住者導入許可条件(1州80家族を限度とする)に基づき、80家族の導入を計るべく設定されたものである。</p> <p>1962年現地入植を皮切りに、1963年北米カリフォルニアで、派米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し、併せて1966年までに27家族が入植したが、其後退耕者があり、定住者は現在11家族である。</p>
自然環境	<p>地形 標高600m、所々に起伏があるが概して東南に向かってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。</p> <p>地質・土壌 植質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子、頗る細かく粘土分も含まれているが、その含有率は所により異なる。弱アルカリ性土壌でpHは7.5~8.0位。</p> <p>植生・林相 耐乾性の強い約40~70cm位の灌木類が密生しており、巨木はない。</p> <p>気候 1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃、最も寒いのは7.9℃となっている。7~8月頃に1~2回雪の降ることがある。平均年間降雨量400mm。</p>
社会環境	<p>主要都市への交通手段 本地区は首都ブエノス・アイレス市より西方960km、州都メンドサ市より南々東330kmにある。ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・ブラッツ町(この間4kmは未舗装)レアル・デル・パードレ町サン・ラファエル市に至る道路は舗装されている。</p> <p>なお、メンドサ市へは毎日4回のバス便(所要時間約5時間半)があり、ブエノス・アイレス市へは1日2往復(所要時間約15時間)長距離バスが運行している。</p> <p>航空便は、ブエノス・アイレスからサン・ラファエル市まで週3便、所要時間約4時間である。サン・ラファエル市からヘネラル・アルベアル市まで毎日8回のバス便(所要時間約2時間半)が運行されている。</p> <p>市場 主な農産物の販売取扱機関並びに主市場は次のとおりである。</p> <p>○ぶどう サン・ラファエル市、ヘネラル・アルベアル市、ハイメ・ブラッツ町各醸造所の外、半官半民のGIOL醸造所と取引されている。</p>

社 会 環 境	地区内道路整備状況	<ul style="list-style-type: none"> ○イチゴ(苗生産) 主にブエノス・アイレス市近郊イチゴ栽培農家と取引きされており、かなりの需要がある。 ○桃、アンズ、スモモ 近傍乾果工場と取引きされている。 ○カンピョウ、切干大根 「亜拓」その他ブエノス・アイレス邦人対象でかなりの需要がある。 幹線は土道である。(事業団より1981年度及び82年度補修工事実施。補修工事費総額 5,876万円)
	電気 飲料水 公共施設 事業団援助 その他	<p>1967年に全戸電化されている。(事業団助成684.7万円)。家庭用単相交流220V。</p> <p>用水路に流れる灌漑水を地下槽に貯水して利用している。天水も一部利用している。</p> <p>宿泊所(南部メンドサ日本語校が使用)</p> <p>学校 小学校 移住地入口より2kmにあり自転車または徒歩で通学。 ヘネラル・アルベアル市は社会環境が整っている。 南部メンドサ日本語校 休校 北部メンドサ日本語校 教師1人 生徒13人(1991年4月現在)</p>

入植状況	年度	1962	1964	1965	1966	現地入植者
	戸数	1	14	1	1	12
	人員	5	60	4	5	48

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	11	28	11
		非居住	—	—	1
		計	—	—	12
現地人		9	—	5	

主な出身県名：香川, 佐賀, 鹿児島, 兵庫, 熊本

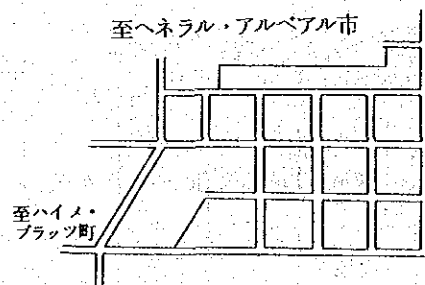
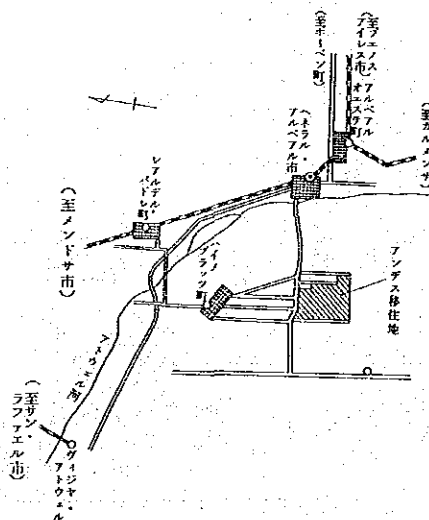
1991年4月1日現在

分譲状況	総面積	1,312 ha			
	ロッテ面積	10 ha (標準ロッテ)			
	分譲条件および価格	一括払 592.9千円 分割払 頭金59.3千円, 据置4年, 5年賦払, 利息3% 円建による分譲契約			
況	分譲可能面積	675.6 ha (69ロッテ)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
		589.9ha(60ロッテ)	85.7 ha(9ロッテ)	636.4 ha	0
業	地権取得	60ロッテ取得済			
農	主作目	ブドウ, モモ, イチゴ			
	形態	ブドウを基幹作物とし, これと野菜を加えた複合経営			
	農機具普及状況	トラクター1.1台 トラック0.9台他 (1986年度農家経済調査結果)			
	家畜飼育頭数	役馬(成0.4頭) 乳牛(成0.7頭・仔0.3頭) 豚(成0.1頭・仔0.1頭) ヤギ(成18.2頭・仔4.5頭) (1986年度農家経済調査結果)			
	営農支援機関	事業団, INTA			
	金融機関	事業団			
業	主作物販売関係その他	イチゴ生産組合, 垂拓, その他			
	その他	同移住地一帯は半乾燥地帯でアトリエル川から取水し, 灌漑農業を行っている。 全戸「コロニア, アンデス協会水利部」に加入, 水利の維持を図っている。			

移住地内日系団体 : コロニア・アンデス協会

地区略図

移住地略図

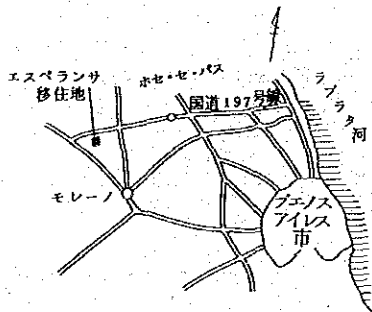


(3) エスペランサ移住地

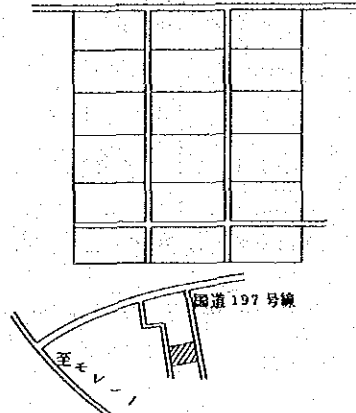
所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡 LUGAR MORENO, PARTIDO MORENO, Pcia. BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	<p>戦後移住した花卉青年等を対象に、その独立援護の一環として10～15戸(小移住地)の独立用地を事業団が概ねブエノス・アイレス市近郊50km内外に一括購入して、雇用契約満了後の青年に予約分譲方式によって分筆分譲して来たものである。</p> <p>独立用地は、当事業団ならびに独立希望者、並拓の協力を得て選定を行い、現在までに14カ所の小移住地を設定している。</p> <p>当移住地は、その第1番目の小移住地で、1967年から入植が開始された。</p>	
自然環境	地形	全体として南東に向ってゆるやかな傾斜をなす。 平担地、標高29～30m
	地質・土壌	幾分粘土性のある黒色土、表土の深さ3.5～5.0cm 排水性良好、地力がありカーネーション栽培に良。 地味は極めて肥沃である。
	植生・林相	牧草原野の一部で、樹木の自然植生は殆んど見られない。
	環境	1～2月頃が最も暑い、最高平均気温22.4℃。6～7月が最も寒い、最低平均気温9.5℃ 平均年間降雨量850mm
社会環境	主要都市への交通手段	国道19.7号線(舗装道路)を30分毎にバスが運行しており、ホセ・セ・パス、モレーノに通じている。 ホセ・セ・パス、モレーノからブエノス・アイレスまで郊外電鉄線が通じている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	電化済み
	飲料水	深井戸60m前後で良質の水が得られる。
	公共施設	地区内には特にないが、近郊のホセ・セ・パス市及びモレーノ市の社会環境は良く整備されている。
入植状況	主な出身県名：東京、長野、神奈川、富山	

入植状況	全戸現地入植者, 12戸49人				
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	
	日本人	居住	12	54	11
		非居住	3	-	-
	計		15	54	11
現地人		-	-	-	
1991年4月1日現在					
分譲状況	総面積	37.8 ha			
	ロッテ面積	1.9 ha			
	分譲条件および価格	一括払い1,135千円 分割払頭金113.5千円, 4年据置, 5年分割払利息19%			
分譲状況	分譲可能面積	34.8 ha (18ロッテ)			
	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地	
		34.8 ha (18ロッテ)	0 ha	3 ha	0
地権取得	18ロッテ中取得9ロッテ, 未申請9ロッテ				
1991年3月末現在					
農業	主作目形	バラ, キク, イチゴ, カーネーション, 鉢物 花卉と蔬菜との複合経営			
	農機具普及状況	トラック0.9台 耕耘機0.7台 農用冷暖房装置6.1式 トラクター0.1台他 (1986年度農家経済調査結果)			
	営農援護機関	事業団, INTA ホセ・セ・パス出張所			
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合			

地区略図



移住地略図



(4) アルマ・フェルテ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州サン・ビセンテ郡 CUARTEL 8° - PARTIDO SAN VICENTE, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	38 ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の目的・経緯で設定された第2号移住地である。 入植開始は1968年。	
自然環境	地形	全体に西に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高27~30m
	地質・土壌	表土は粘土性ある黒色土で、有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40cmあり、花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野、自然生育の樹木はない。
	気候	乾期雨期の区分が明確でない。1~2月頃が最も暑く、最高平均気温28.4℃。6~7月が最も寒く、最低平均気温6.0℃。平均年間降雨量890mm。
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウまでは陸路35km、鉄道、バスが頻繁に往復し至便である。グレウ駅からは本地区より200mの地点まで、バスが10分おきに往復しており道路は舗装されている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	地区内道路整備状況	土道
	電気	電化されている。
	飲料水	深井戸60m掘削すると良質の水が得られる。
	公共施設	移住地内に日本語学校がある。(教師1名、生徒19名)(1985年7月現在)。移住地より約3kmでグレウの市街地に達し、社会生活環境は整っている。
入植状況	全戸現地入植者 13戸 主な出身県名：神奈川	

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	13	63	13
非居住		2	—	—	
	計	15	63	13	
現地人		—	—	—	

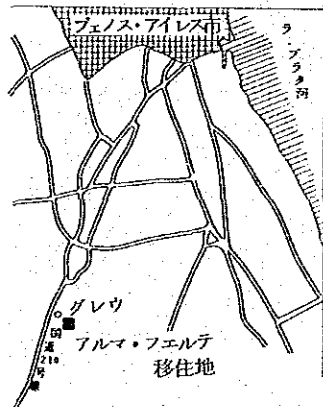
1991年4月1日現在

分譲状況	総面積	38.8ha (1.5ロット)
	ロッテ面積	2.6ha
	分譲条件および価格	一括払 1,200千円, 分割払 頭金120千円, 4年据置5年分割払, 利息19%
	分譲状況	全て分譲済(1.5ロット)
地権取得	1.5ロット中取得 1.1ロット 未申請4ロット	1991年3月末現在

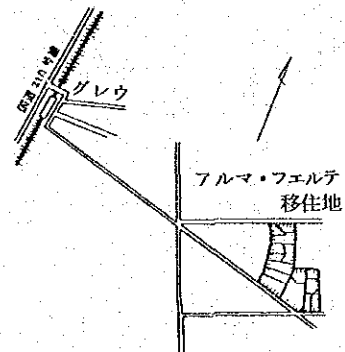
農業	主作目	カーネーション, キク, イチゴ
	形態	カーネーション, キク, バラ等の花卉及びイチゴ等の蔬菜類と園芸農家が主体。
	農機具普及状況	トラック0.5台 耕耘機1.0台 トラクター0.5台 動噴1.3台 農用冷暖房装置0.4式 他 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	ヒツジ(仔0.1頭) (1986年度農家経済調査結果)
	官農援護機関	
	官農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場, INTA, フロレンシア・パレラ出張所
金融機関	事業団, 銀行	
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合	

移住地区内日系団体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



(5) ローマ・ベルデ移住地

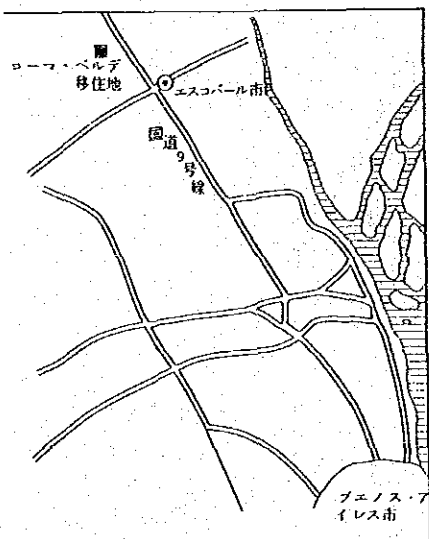
所在地	ブエノス・アイレス州エスコバル郡 COLONIA LOMA VERDE, DEPARTAMENTO BELEN DE ESCOBAR, Pcia. DE BUENOS AIRES				
面積	42ha				
経緯	エスベランサ移住地と同様の目的、経緯で設立された第3号移住地である。 入植開始は1969年からである。				
自然環境	地形	平担地で標高約30m程度、ゆるやかな傾斜が西に流れている。			
	地質・土壌	沖積土地帯であり、表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均40cm程度で花卉栽培に適している。			
	植生・林相	牧草原野			
	気候	乾期雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑く、最高平均気温29.8℃。年間平均気温15.9℃ 平均年間降雨量85.5mm。			
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市より陸路56kmである。道路は舗装されており、交通至便。			
	市場	エスコバル市より8km(国道9号線)			
	地区内道路整備状況	ブエノス・アイレス市 土道である。			
	電気	1974年度に地区内の電化が完成、ブエノス・アイレス州電力局より配電をうけている。			
	飲料水	飲料水は深井戸60m程度を掘削すると良質の水が得られる。			
	公共施設	地区内には特にないが、移住地より8kmでエスコバル市の中心に達するので市内の小学校、中学校、病院等を利用出来る。			
入植世帯数	区分	入植数	入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	11	55	11
		非居住	4	—	—
	計	15	55	11	
	現地人	—	—	—	

1991年4月1日現在

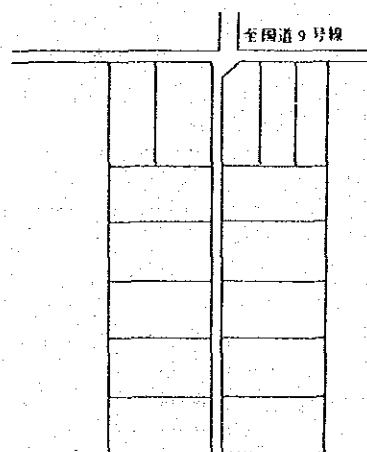
主な出身県名：東京，青森，神奈川					
分譲状況	総面積	42.8ha			
	ロッテ面積	2.8ha			
	分譲条件及び価格	一括払 頭金1,684.5千円 分割払 頭金168.45千円 4年据置5年分割 利息1.9%			
	分譲可能面積	41.5ha (15ロッテ)			
	分譲状況	<table border="1"> <tr> <th>分譲済面積</th> <th>道路市街地等利用地</th> </tr> <tr> <td>41.5ha(15ロッテ)</td> <td>1.3ha</td> </tr> </table>	分譲済面積	道路市街地等利用地	41.5ha(15ロッテ)
分譲済面積	道路市街地等利用地				
41.5ha(15ロッテ)	1.3ha				
地権取得	15ロッテ中取得12ロッテ，未申請3ロッテ				
1991年3月末現在					
農業	主作目	バラ，イチゴ，キク，観葉植物			
	形態	バラ，キク観葉植物等の花卉を主幹にイチゴ等の蔬菜園芸を従とした単一経営			
	農機具普及状況	トラック1.0台 耕耘機1.4台 動噴1.9台 農用冷暖房装置2.6式他 (1991年度農家経済調査結果)			
	営農支援機関 営農指導 金融機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA Delta 試験場 銀行，事業団			
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業界組合			

移住地内日系団体：組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



(6) マルコス・パス移住地

所在地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 MARCOS PAZ, Peia. BUENOS AIRES
面積	37ha
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯・目的で設立された第4号移住地である。1970年より入植が開始された。
自然環境	<p>地形 東西に約1,270m, 南北に約1,240m, 地形は、ゆるやかな傾斜が西より流れている。標高平均30m。</p> <p>地質・土壌 沖積土地帯であり、表土は黒色の砂壤土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約30cmであるが、それ以下50cm程度まで褐色砂壤土であり、花卉栽培に適している。</p> <p>地質・土壌 樹木の植生は1本も見られない。</p> <p>気候 1～2月頃が最も暑い、最高平均気温30.1℃, 6～7月頃が最も寒い、最低平均気温4.5℃, 平均年間雨量938mm。</p>
社会環境	<p>主要都市への交通手段 移住地よりマルコス・パス市まで約2.5kmで、ブエノス・アイレス市とマルコス・パス市間は陸路45km, 国鉄およびバス便があり、所要時間は国鉄は約1時間20分, バス約40分, 交通至便。</p> <p>市場 大半がブエノス・アイレス市, 陸路45km, マルコス・パス市</p> <p>地区内道路 土道である。</p> <p>整備状況</p> <p>電気 1973年7月に電化された。</p> <p>飲料水 飲料水は約50m程度掘削すると良質の水が得られる。</p> <p>公共施設 マルコス・パス市に小学校18校, 中学校2校がある。 マルコス・パス日本語校 教師2人 生徒30人 (1991年4月現在) 病院は慈善病院1院, 個人病院4院がある。</p>

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
日本人	居住		12	48	12
	非居住		1	-	-
	計		13	53	12
現地人			-	-	-

主な出身県：東京，香川，沖縄

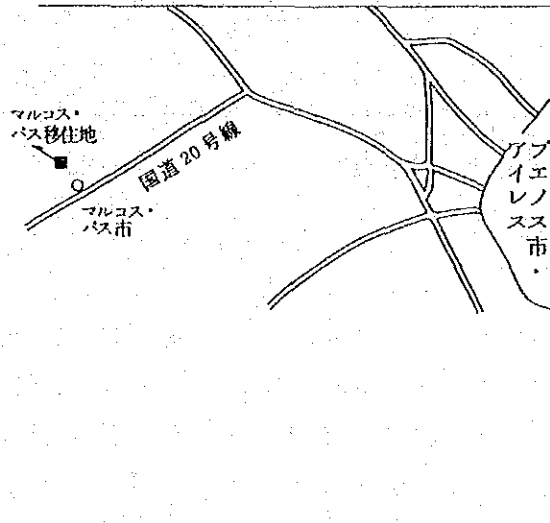
1991年4月1日

分譲状況	総面積	40.2ha
	口積	2.9ha
	分譲条件および価格	一括払 1,500千円 分割払 頭金10%，4年据置5年分割払，利息19%
	分譲可能面積	40.2ha（14ロット）
	分譲状況	全て分譲済（14ロット）
	地権取得	14ロット中取得11ロット，未申請3ロット
		1991年3月末現在

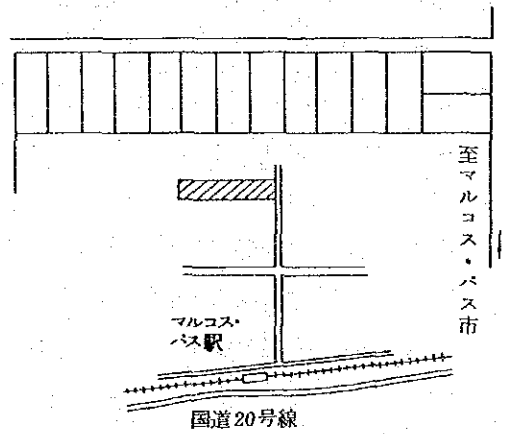
農業	主作目	キク，カーネーション，鉢物
	形態	キク，カーネーション等を主体とした花卉園芸単一経営 養鶏農家が1戸ある。
	農機具普及状況	トラック0.5台 トラクター0.9台 耕耘機1.1台 動噴1.2台 (1986年度農家経済調査結果)
	家畜飼養頭数	ヒツジ(成0.1頭)
	営農援護機関	
	営農指導	アルゼンティン園芸総合試験場
	金融機関	銀行，事業団ブエノス花卉産業組合
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合	

移住地内日系団体には組織だったものはない。

地区略図



移住地略図



(7) エル・パット移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 RUTA NACIONAL, PARTIDO DE BERAZATEGUI, Peia. DE BUENOS AIRES	
面積	37 ha	
経緯	エスベランサ移住地と同様の経緯, 目的で設立された第5号の移住地である。	
自然環境	地形	全体的にみて, やや波状形の平坦地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。標高平均28 m。
	地質・土壌	沖積地帯であり, 表土は若干粘土性のある黒色壤土で, 有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40 cm, 50 cm以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。
環境	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1~2月頃が最も暑い, 最高平均気温28.4℃ 6~7月頃が最も寒い, 最低平均気温6.0℃ 平均年間降雨量893 mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地より東方約1.5 kmの地点には, 国道2号線(ブエノス・アイレス〜マル・デル・プラタ)が通っており, 両市間ならびにブエノス・アイレス〜ラ・プラタ市間を往復するバスの他, 南部各都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 国道41 kmの地点にバス停留所があり, ブエノス・アイレス市までの所要時間は, 約1時間程度である。 エル・パット町陸路5 km, メルチョール・ロメロ町陸路17 km, アバスト町陸路17 km, ラ・プラタ市(州首都), 陸路29 km ブエノス・アイレス市, 陸路41 km
	市場電気飲料水公共施設	大半がブエノス・アイレス市 電化完了 良質の地下水を利用 移住地より北東にあるエル・パット町に小学校, 診療所がある。 エル・パット町に警察駐在所がある。

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	8	38	8
非居住		4		0	
	計	12	38	8	
	現地人	-	-	-	

主な出身県：福岡

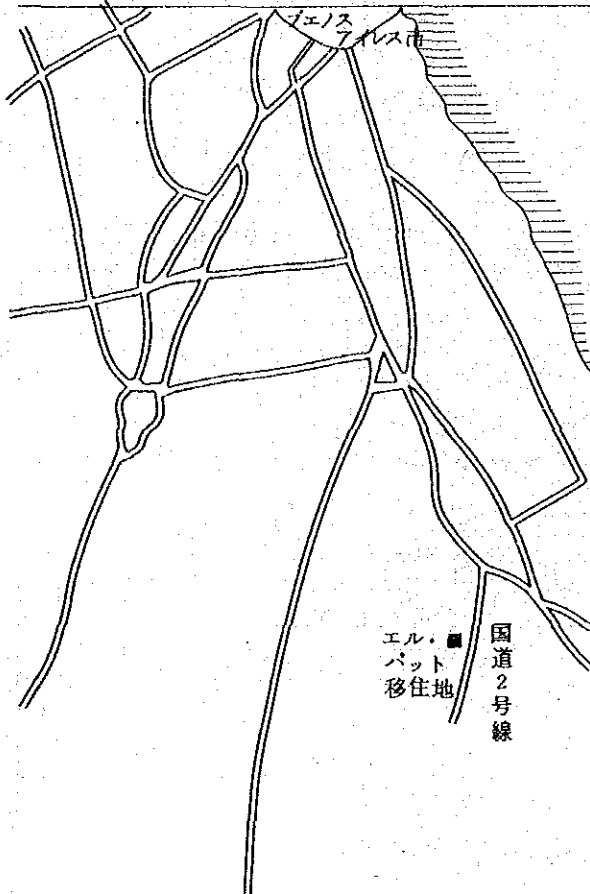
1991年4月1日現在

分譲状況	総面積	37.1ha		
	ロッテ面積	2.6ha		
	分譲条件および価格	一括払 1,162千円 分割払 頭金162千円 4年据置5年分割払 利息1.9%		
	分譲可能面積	34ha (13ロッテ)		
	分譲状況	分譲済面積	道路市街地等利用地	
	34ha (13ロッテ)	3.1ha		
	地権取得	13ロッテ中取得9ロッテ、未申請4ロッテ		
	地区内道路整備状況	土道である。		
		1991年3月末現在		

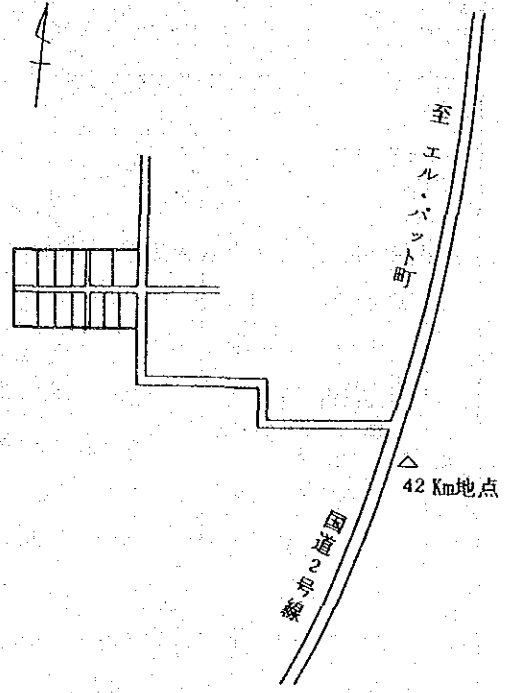
農業	主作目	カーネーション、キク、バラ、鉢物
	経営形態	カーネーション、キクの花弁園芸単一経営
	農機具普及状況	トラック0.7台 耕耘機0.6台 トラクター0.9台 動噴1.6台他 (1986年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	
	営農指導 金融機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA Florence Varela 出張所 銀行、事業団
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合

移住地内には組織だった日系団体はない。

地区略図



移住地略図



(8) セラージャ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ピラル郡 BARRIO ZELAYA PARTIDO DE PILAR, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	30 ha	
経緯	エスベランサ移住地と同様の目的, 経緯で設立された移住地で, 入植開始は1972年である。	
自然環境	地形	全体にやや平坦な地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	沖積土地帯で, 表土は若干粘土性のある黒色壤土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは18~28cmで下層は黒色粘土層である。
	植生・林相	一部に(0.2~0.3 ha)ユーカリがあり, 放牧中の牛の日焼除けに利用されている外は全面原生草地である。
	気候	1~2月頃が最も暑い, 最高気温29.8℃ 6~7月頃が最も寒い, 最低気温8.9℃ 平均年間雨量855mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地は国道8号線と9号線の間地点にあり, 東方約4kmには州道25号線(ピラル市, エスコバル市)が通っており, 両市を往復するバスの外ピラル市, エスコバル市地点では, 南北都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 ブエノス・アイレスおよびベルガミーノ市を結ぶ鉄道が, 移住地の北方を通っており, 700m北方にセラージャ駅がある。 バス, 鉄道何れによってもブエノス・アイレス市までの所要時間は, 約1時間30分程度である。 セラージャ町人口0.4万人, 陸路700m, エスコバル市人口7.1万人 陸路7km ピラル市人口7.1万人, 陸路10km, ブエノス・アイレス市人口292万人, 陸路52km
	市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	大半がブエノス・アイレス市 土道 電化完了 良質の地下水を利用 移住地区には特にないが, 移住地より北方700mにセラージャ町があり, 小学校・診療所がある。セラージャ町に警察駐在所がある。

入植世帯数	入植者		入植世帯数		農業戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住		10	49
非居住			1	—	1
計			11	49	11
現地人			—	—	—

全戸現地入植者

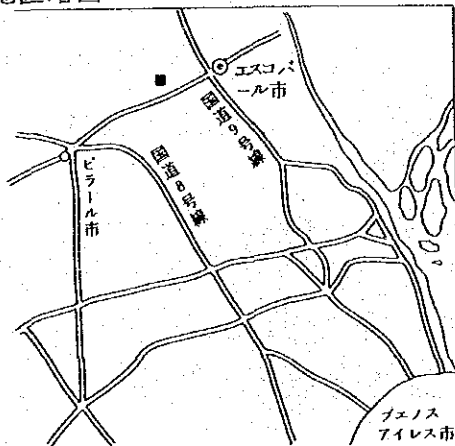
主な出身県名：北海道，福島

1991年4月1日現在

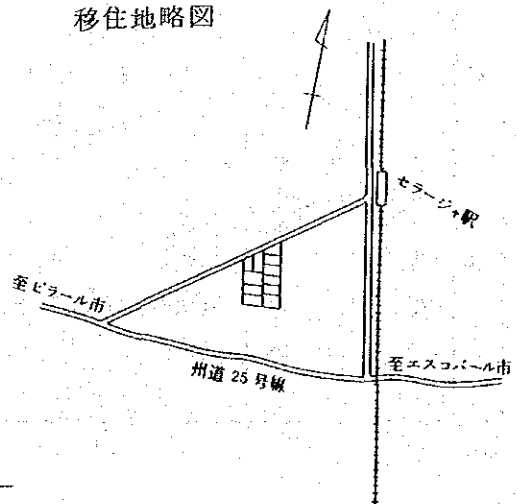
分譲状況	総面積	30.4ha	
	ロッテ面積	2.7ha	
	分譲条件および価格	一括払 1,444.5千円 分割払 頭金1,444.5千円 4年据置5年分割払 利息19%	
	分譲可能面積	29.7ha (11ロッテ)	
	分譲状況	分譲済面積	保留地
	29.7ha (11ロッテ)	0.7ha	
	地権取得	11ロッテ中取得9ロッテ，未申請2ロッテ	
		1991年3月末現在	

農業	主作物形態	バラ，キク，イチゴ，鉢物 バラ，キクの花弁園芸を主体とした単一経営もしくは，これにイチゴ，トマト等の蔬菜栽培を加えた複合経営。
	農機具普及状況	トラック0.6台，耕耘機1.0台，動噴1.3台，他(1986年度農家経済調査結果)

地区略図



移住地略図

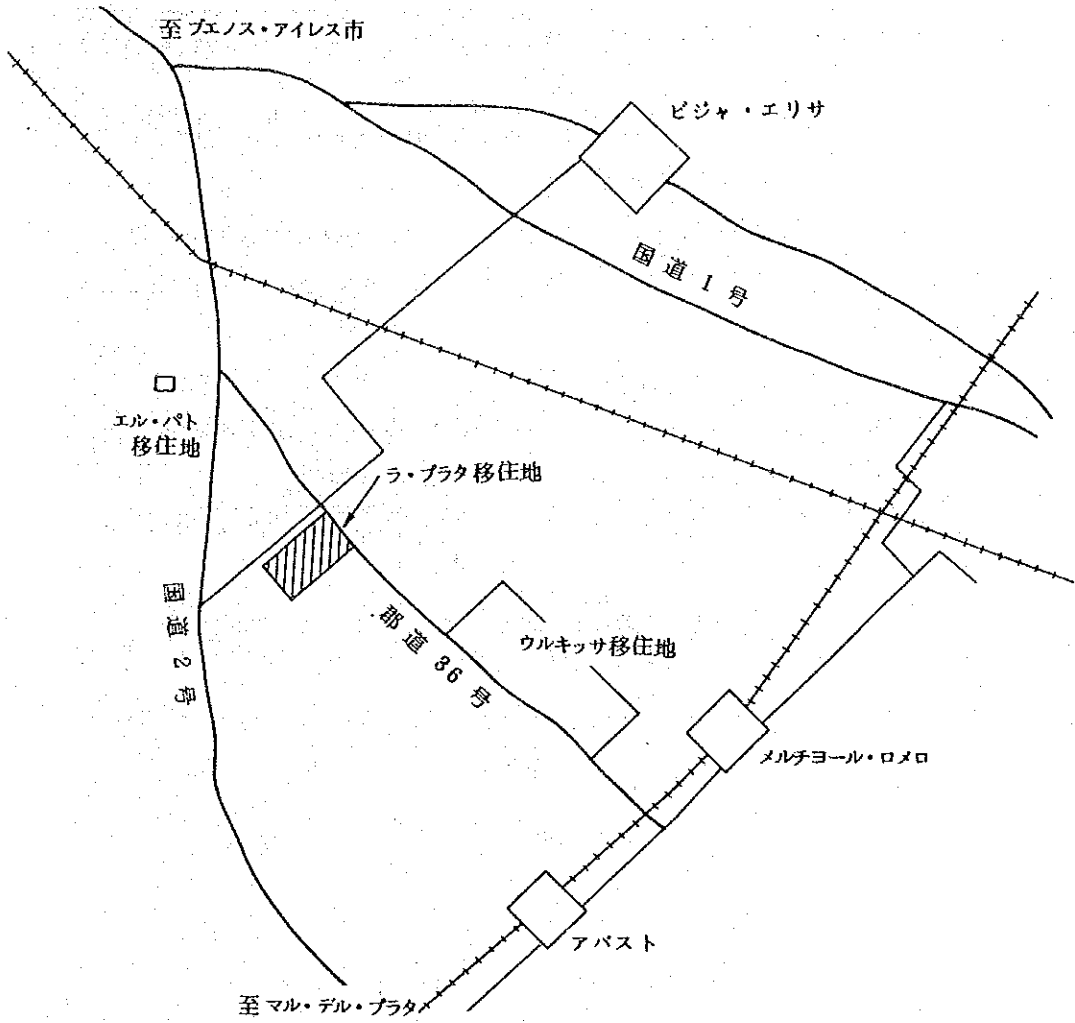


(9) ラ・プラタ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州ラ・プラタ郡 LUGAR EL PELIGRA PARTIDO LA PLATA PROVINCIA DE BUENOS AIRES	
面積	120ha	
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯，目的で設立された第8号移住地である。入植開始は1975年からで，現在46戸が定住している。	
自然環境	地形	ウルキッサ移住地に隣接する肥沃な土地で全体的に西北西に向って緩い傾斜があるが，ほぼ平坦地で標高28mである。
	地質・土壌	沖積土地帯で表土は黒色をし，相当の有機質に富み肥沃である。表土は30～40cmを有し，それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生・林相	2年前までは乳牛飼育の放牧場として利用し，購入時まではトウモロコシの耕作をしていた。
	気候	1～2月が最も暑い。最高平均気温21.2℃ 6～7月が最も寒い。最低平均11.7℃ 年平均気温が15.8℃，平均年間降雨量1,076mm，降霜5～9月の間に5～7回程度。 全体的にほぼ平坦であるが，北東側と西北西側には排水溝を有し，余剰雨水及び花卉栽培用の必要水は充分である。
社会環境	主要都市への交通手段	バス：入植地の南西1.5kmの地点に国道2号線が通り，ブエノス・アイレス市ラ・プラタ市間を往復するほか，ローカル線もバスも頻繁に往復している。当地北東側は州道36号に接しておりローカルバス開通の計画がある。 エル・バット町 当地より西北西方約1.0km メルチョル・ロメロ町 " 北東方約1.0km アバスト町 " 北東方約1.0km ラ・プラタ市 " 東南方約2.5km ブエノス・アイレス市 " 北西方約4.5km
	市場 地区内道路 整備状況 電気 公共施設	大半がブエノス・アイレス市 土道 1977年度に電化された(事業団補助額3,854千円)。 当地隣接地に州立小学校がある。1.5km離れた国道2号線を横断した地点に銀行・商店街があり，入植者の生活必需品の購入には便利である。大きな病

		院, 中学, 大学は約2.5kmのラ・プラタ市に存在する。 ラ・プラタ日語学校 教師1人 生徒29人 公民館			1991年3月現在
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	37	173	37
		非居住	1	-	-
		計	38	173	37
現地人		-	-	-	
1991年4月1日現在					
全戸現地入植者					
主な出身県名: 熊本, 北海道, 長崎, 岡山, 岩手, 高知, 埼玉, 三重, 静岡, 愛媛, 広島, 鳥取					
分譲状況	総面積	120.3ha			
	ロッテ面積	2.2ha			
	分譲条件および価格	一括払 1,075千円 分割払 頭金322.5千円 4年据置5年分割払 利息19%			
	分譲可能面積	107.1ha (50ロッテ)			
	分譲状況	分譲済面積	道路市街地等利用地		
		107.1ha (50ロッテ)	13.2ha		
	地権取得	50ロッテ中1ロッテ取得, 未申請49ロッテ			
1991年3月末現在					
農業	主作目	カーネーション, バラ, キク			
	形態	カーネーション, バラ, キク等花卉園芸経営の単一経営			
	農機具普及状況	トラック0.5台 耕転機0.6台 トラクター0.9台 動噴1.1台他 農用冷暖装置0.2式 (1986年度農家経済調査結果)			
	営農指導機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場, INTA Delta 試験場			
	金融機関	銀行, 事業団			
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合			
移住地内日系団体 コロニア・ラ・プラタ日本人会がある。					

地区略図



(10) グレウ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州アルミランテ・ブラウン郡 GLEW, PARTIDO DE ALMIRANTE BROWN, Pcia. DE BUENOS AIRES	
面積	75 ha	
経緯	エスベランサ移住地と同様の目的、経緯で設立された第9号移住地で、入植開始は1977年である。	
自然環境	地形	中心よりやや西寄りを頂点として皿を伏せたような形で、四方にゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高平均29m
	土質・土壌	沖積土地帯で、表土は黒色を呈し、可成り有機質に富み肥沃である。表土は40cmを有しそれに続く下層は、良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生	牧草原野、自然育生の樹木はない。
	気候	気温 年間平均16.1℃ 最高平均22.0℃ 最低平均10.5℃ 雨量年間1,016mm 降霜5月～9月の間に平均18回程度
社会環境	主要都市への交通手段	ブエノス・アイレス市からグレウ市までは、鉄道、バスが頻繁に往復している。 グレウ駅から、入植地より約500mの地点まで30分毎にバスが往復している。 入植地より約500m地点までの道路は舗装されている。 グレウ市 距離約 4km ブルサコ市 " 7km アドログ市 " 10km ブエノス・アイレス市 " 35km
	市場 地区内道路整備 状況 公共施設	大半がブエノス・アイレス市 土道 移住地内には特にないが、当事業団の園芸総合試験場が設けられている。 グレウ市までの途中に診療所がある。近傍都市には医療施設完備。 移住地に隣接する住宅街地区内約2kmのところ小学校がある。

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	16	70	16
日本人	非居住	2	—	—	
	計	18	70	16	
現地人		—	—	—	

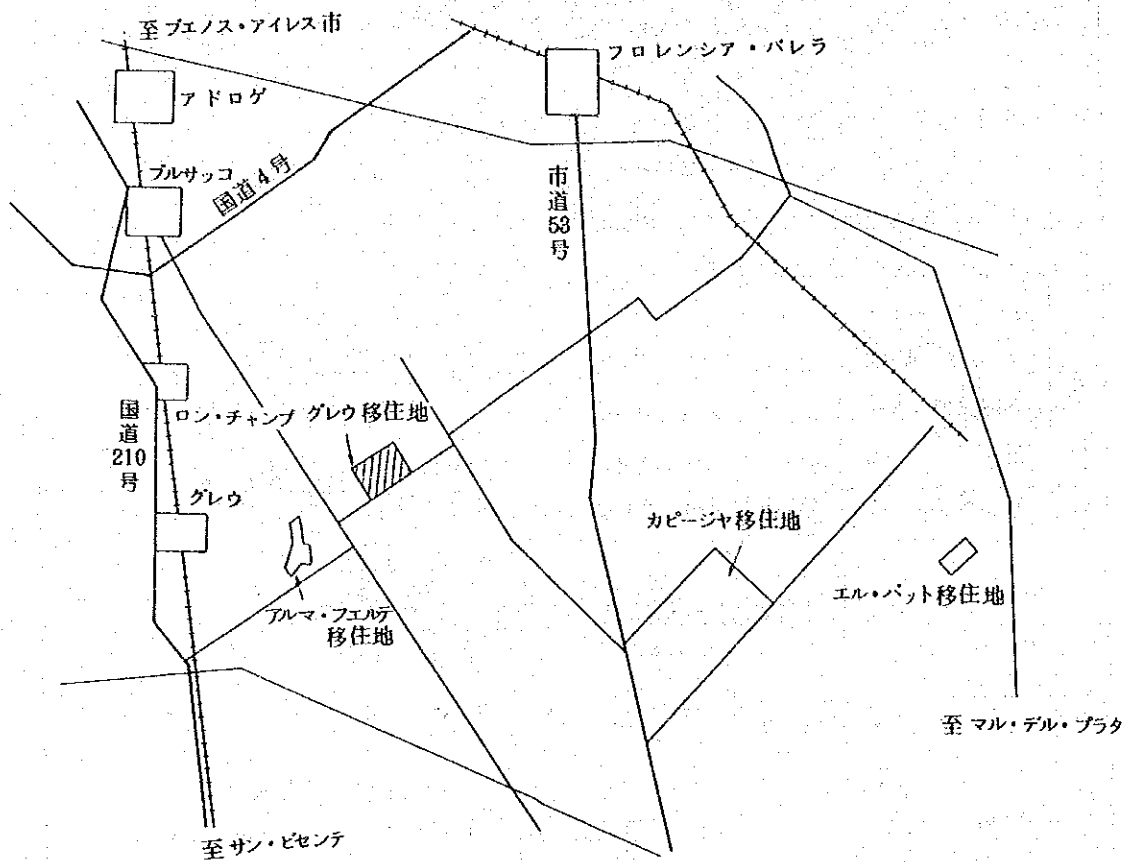
主な出身県名：長崎，秋田，群馬，山口，大阪，熊本，岩手，福岡

全戸現地入植者

1991年4月1日現在

分譲状況	総面積	75ha		
	ロッテ面積	2.9ha		
	分譲条件および価格	一括払 2,405千円		
	分譲状況	分割払 頭金481.1千円 3年据置 3年分割払 利息19% 分譲可能面積 62.3ha (21ロッテ)		
分譲状況		分譲済面積	道路公共用地	
		62.3ha (21ロッテ)	12.7ha	
地権取得	21ロッテ中取得4ロッテ，未取得17ロッテ			1991年3月末現在
農業	主作目	カーネーション，キク，トマト，		
	形態	カーネーション，キク，バラの花弁と蔬菜との複合経営		
	農機具普及状況	トラック0.3台 耕耘機0.8台 トラクター0.6台 動噴1.3台他 (1986年度農家経済調査結果)		
	管農援護機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA FLORENCE VARELA出張所		
農業	管農指導	事業団，銀行		
	金融機関	事業団，銀行		
農業	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉組合		

地区略図



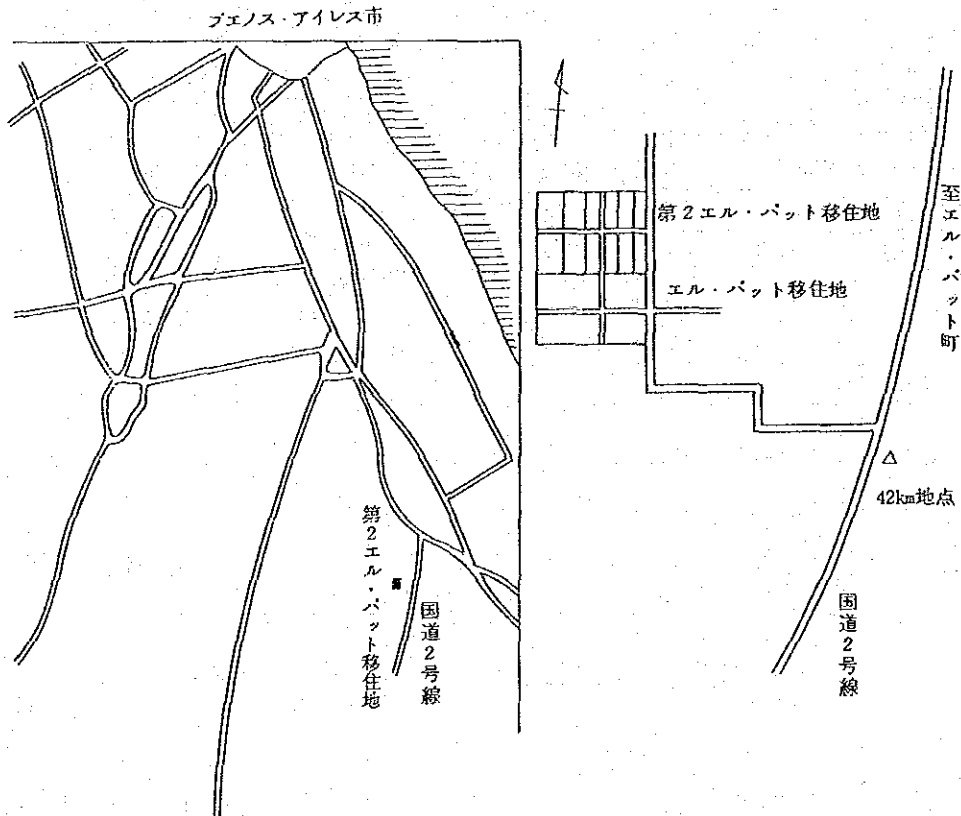
(II) 第2エル・パット移住地

所在地	ブエノス・アイレス州 ベラサテギ郡 RUTA 2 DE NACIONAL,, PARTIDO DE BERAZATEGUI, PCIA. BUENOS AIRES				
面積	37ha				
経緯	エスペランサ移住地と同様の経緯, 目的で設立された第10号の移住地である。				
自然環境	地質・土壌 植生・林相 気候	エル・パット移住地(第5号)の隣接地であり, 環境等同じ条件にあるので, 同移住地の項を参照。			
社会環境	主要都市への 交通手段 市場 電気 飲料 公共施設	同上			
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	9	42	9
		非居住	2	-	1
		計	11	42	10
現地人		-	-	-	
主な出身県: 山口, 香川, 島根, 高知					
1991年4月1日現在					

分 譲 状 況	総面積	37.2 ha	
	ロッテ面積	2.8 ha	
	分譲条件および価格	一括払 3,827千円 分割払, 頭金30%, 据置なし, 3年分割払, 利息19%	
	分譲可能面積	33.9 ha (12 ロッテ)	
分 譲 状 況	分譲済面積	道路市街地等利用地	
	33.9 ha (12 ロッテ)	3.3 ha	
地 権 取 得	12 ロッテ中取得2 ロッテ, 未取得10 ロッテ		1991年3月末現在
農 業	主 作 目	カーネーション, キク,	
	形 態	カーネーション, キク等花卉園芸経営の単一経営。	
	営農援護機関		
	営農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場	
	金融機関	銀行, 事業団	
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉産業組合		

地区略図

移住地略図

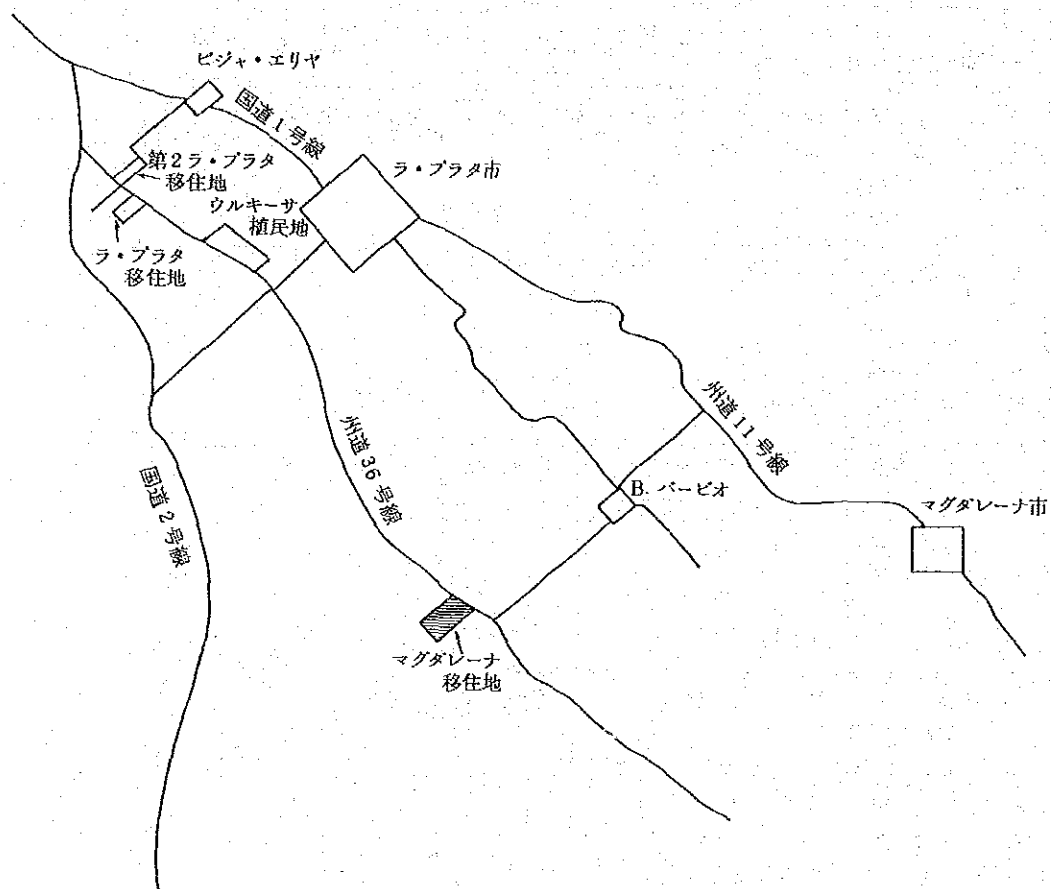


(12) 第2・プラタ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州 ラ・プラタ郡 LUGAR EL PELIGRO, PARTIDO LA PLATA, PROVINCIA DE BUENOS AIRES				
面積	14.4 ha				
経緯	エスベランツ移住地と同様の経緯。目的で1985年3月第13号移住地として設置した。 入植開始は1987年である。				
自然環境	地質・土壌 植生・林相 気候	ラ・プラタ移住地(第8号)の斜向いであり、環境等同じ条件にあるので、同移住地の項を参照。			
社会環境	主要都市への交通手段 公共施設 電 気	同 上 電化完了			
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区 分		戸 数	人 数	戸 数
	日本人	居住	18	38	18
		非居住	12	-	4
	計		30	38	22
現 地 人		-	-	-	
主な出身県名：熊本、高知、秋田、北海道、岡山、香川、島根 全戸現地入植者					
1991年3月末現在					
分譲状況	総面積	14.4 ha			
	ロッテ面積	約4 ha			
	分譲条件および価格	円建による分譲契約 一括払 4,643千円(1ロッテ) 分割払 頭金10%(464.3千円)、残額は4年据置5年分割払 利息 年3%			
	分譲可能面積	14.06 ha			
分譲状況	分譲済面積	道路市街地等利用地		未分譲面積	
		13.66 ha (32 ロッテ)		3.4 ha	
	地権取得	33 ロッテ中取得1 ロッテ、未取得32 ロッテ			4.0 ha (1 ロッテ)
1991年3月末現在					
農業	主作物形態	カーネーション			
	営農援護機関	カーネーション、バラ等花卉園芸経営の単一経営			
	営農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場			
	金融機関	銀行、事業団			
主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉組合				

地区略図

至: ブエノス・アイレス市



至: マル・デル・プラタ市

(13) マグダレーナ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州 LUGAR OLIDEN, PARTIDO MAGDALENA, PROVINCIA DE BUENOS AIRES		
経緯	エスペランサ 移住地と同様の経緯, 目的で1988年3月第14号移住地として設置した。 1988年7月から分譲を開始した。		
自然環境	地形	全体的にはほぼ平坦であるが, 僅かに北東から南西に向って, 緩やかな傾斜を呈している。標高平均20m。	
	土質・土壌	沖積土壌地帯で, 表土は黒色を呈し, 可成りの有機質に富み肥沃である。表土は30~40cmを有し, それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培等に最適な土地である。	
	植生・林相	購入時までには, 一部トウモロコシ, 一部乳牛飼育の放牧場をして利用していた。	
	気候	気温, 年間平均16.0℃, 最高平均21.5℃, 雨量年間1,022mm, 降霜5月~8月の間に平均10回程度	
社会環境	主要都市への交通手段	バス: 移住地沿いに, 州道36号線が通り, ラ・プラタ市, マグダレーナ市間をローカル線が往復している。本数は少ない。	
	市場	バビオ町 当地より北東方 約10km マグダレーナ市 # # 約30km ラ・プラタ市 # 北 方 約35km ブエノス・アイレス市 # 北西方 約80km 大半がブエノス・アイレス市	
	地区内道路整備状況	土道であるが, 貝殻混合小砂利敷で全天候型である。	
	公共施設	移住地内には特になし。10km離れたバビオ町に個人医がいる他, 商店街もあり, 生活必需の購入が出来る。病院, 中学, 高校, 大学は, 35km離れたラ・プラタ市に所在する。	
	電気	電化については, 移住地の東北側に高压線(13,200V)が引かれているので, 変圧器を付けることにより, 容易に引込みが可能である。	
分譲状況	総面積	166ha	
	ロッテ面積	約5ha	
	分譲条件および価格	円建による分譲契約 一括払 1,447千円(1ロッテ) 分割払 頭金10% (144.7千円), 残額は4年据置5年分割払, 利息 年3%	
	分譲可能面積	161.6ha	
	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地
	66.1ha(13ロッテ)	95.5ha(18ロッテ)	4.4ha
	地権取得	土地代未完済のため13ロッテ全未取得 1991年3月末現在	
	金融機関	銀行, 事業団	
	主作物販売取扱機関	アルゼンティン花卉組合	

(14) エル・チャニャール移住地

所在地	ネウケン州アネーロ郡 DERARTAMENTO ANELO, PROVINCIA DEL NEUQUEN	
面積	76 ha	
経緯	今日までの小移住地設定については、花卉市場の将来性に対する懸念あるいは花卉栽培のみならず、果樹栽培への希望もあって、エル・チャニャール移住地は、ブエノス・アイレス近郊から離れてネウケン州にリングを中心として果樹栽培移住地を設定した。 入植開始は1973年からである。	
社会環境	主要都市への交通手段 市市場 飲料水 電化 地区内道路整備状況 公共施設	移住地より約3km地点にビジャ・マンサーノ町があり、移住地より約4.0kmにネウケン市がある(ビジャ・マンサーノ町～ネウケン市)。バスが頻繁に往復しており、所要時間約1時間、ネウケン市より各都市を結ぶ長距離バスおよび国鉄が運行している。交通至便。 ブエノス・アイレス市 陸路1,196km, ネウケン市 陸路40km, シボレエティ市, 陸路46km 大半がブエノス・アイレス市 約10m掘削すると水が得られる。 電化完了。220V50サイクル3相交流 移住地内は砂利道である。 移住地内には特にないが、ビジャ・マンサーノ町に小学校と中学校がある。高等学校, 大学はネウケン市にある。 医療は、簡単な医療施設がビジャ・マンサーノ町にあるが重症患者はネウケンの病院に行かねばならない。
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相	ネウケン河, 河床地帯にて耕作可能, 河岩市(河の北岸)約4.5km台地の距離約80kmの平坦地であり, 標高約280mである。 リオ・ネウケンの沖積土壌であり, 砂質壤土ないし砂質壤土とみられる。色状は灰褐色を示し, 垂直分布は約2~3mであり下方は礫質である。但し河岸に近いロッテ中には礫の混合している処もある。 ハリーヤ, ビーキリン, チャニャール, サンバア等乾燥地特有の灌木が見られる。高さ1m程度, 又楨林以外は自然発生の森林はない。 1~2月が最も暑い。最高平均気温22.5℃ 6~7月が最も寒い。最低平均気温6.9℃ 年間平均降雨量209mm

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分				
日本人	居住	3	6	3	
	非居住	3	—	3	
	計	6	6	6	
	現地人	1	—	1	

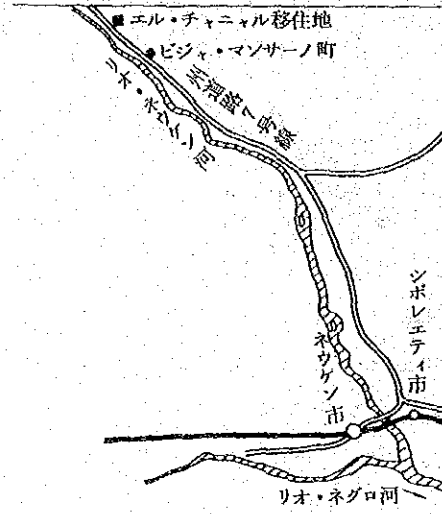
1991年4月1日現在

主な出身県名：北海道，沖縄

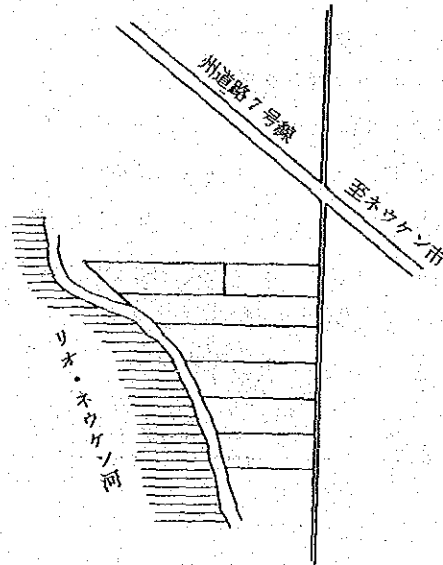
分譲状況	総面積	76ha
	ロッテ面積	10.9ha
	分譲条件および価格	一括払 4,163千円 分割払 416.3千円 4年据置 5年分割払 利息19%
	分譲可能面積	76ha(7ロッテ)
	分譲状況	既に分譲済(7ロッテ)
	地権取得	7ロッテ中取得3ロッテ，未申請4ロッテ

農業	主作目	イチゴ，メロン，インゲン，リンゴ
	形態	蔬菜とリンゴとの複合経営
	農機具普及状況	トラクター1.7台，トラック1.3台，動噴1.0台他(1986年度農家経済調査結果)
	営農援護機関	
	営農機関	事業団アルゼンティン園芸総合試験場，El Chañar 移住管理事務所
	金融機関	銀行，事業団
	主作物販売取扱機関その他	リンゴ出荷組合 リンゴ植え付けは1974年からである。

地区略図



移住地略図



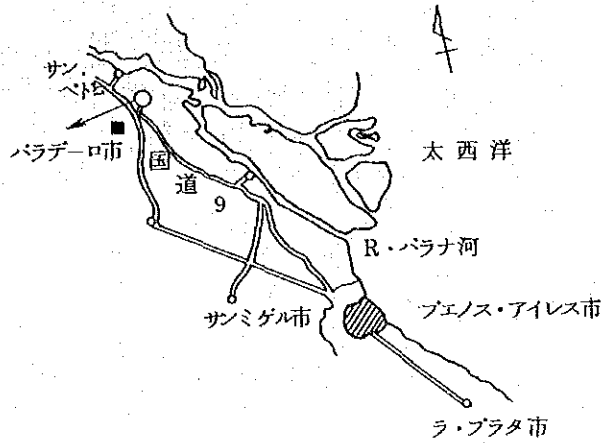
(14) バラデロ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州バラデロ郡 BARADERO, PARTIDO BARADERO Pcia. DE BUENOS AIRES.
面積	407ha
経緯	当事業団では、これまで、花卉栽培を主体とする小規模移住地を10カ所設置し、既に、アルゼンティンに移住していた花卉農業青年を主体とする自営独立希望者に対する農地分譲として便宜をはかって来たが、今後、従来の花卉主体の営農から一歩進めた果樹栽培を目的として、1982年3月本入植地を設置し、1983年7月から分譲を開始した。
自然環境	地形 対象地はパンパ・オンドラダ(波状)の一部であり、その75%は波状の丘の上にあつて、標高32.5~35.0m前後で概ね平坦である。残り25%はパラナ河の支流アレン・フェス川右岸に続く湿地に向かつて、北西の方向へ緩い1~2度の勾配の斜面を成して標高17.5mに達している。
	地質・土壌 土壌は亜熱帯プレーリーの帯赤黒色土壌又はパラナ河による沖積土からなり、粒状構造をもつた厚い(30~75cm)暗色の肥沃な腐植層をもつてゐる。酸性が可成り強い。土性については、パンパシルトに象徴される如く、シルト質に富むA層はローム、B層は粘土質ロームまたは粘土が強い。
	気候 月平均気温 10.8~23.6℃ 年平均気温 16.9℃ 平均最高気温 15.7~30.1℃ 平均最低気温 5.5~16.9℃ 絶対最高気温 27.6~40.7℃ 絶対最低気温 -6.7~6.7℃ 年平均相対湿度 66~83% 月平均降水量 52.4~333.3mm 年平均降水量 1,073.7mm 降霜期間は4月末~10月中旬であるが、パラナ河の影響もあつて降霜は少ない。高さ2mにおける月平均風速9.0~11.9km/hr
	地下水 対象地区の地下水層は第1層が1.7m、第2層が2.5m、第3層が4.5mと言われている。現在人畜の飲料水等に利用されている。
社会環境	主要都市への交通手段 入植地の入口までアスファルト道路(州道)が通り、北東約2kmの地点にはパン・アメリカン道路(RUTA9)が通つている。長距離バス及び鉄道(ブエノス・アイレス市、ロザリオ市を結ぶ鉄道が通過するバラデロ市駅が、地区の北東5km地点にある)の便も良く、ブエノス・アイレス市までの143kmは約2時間の行程である。

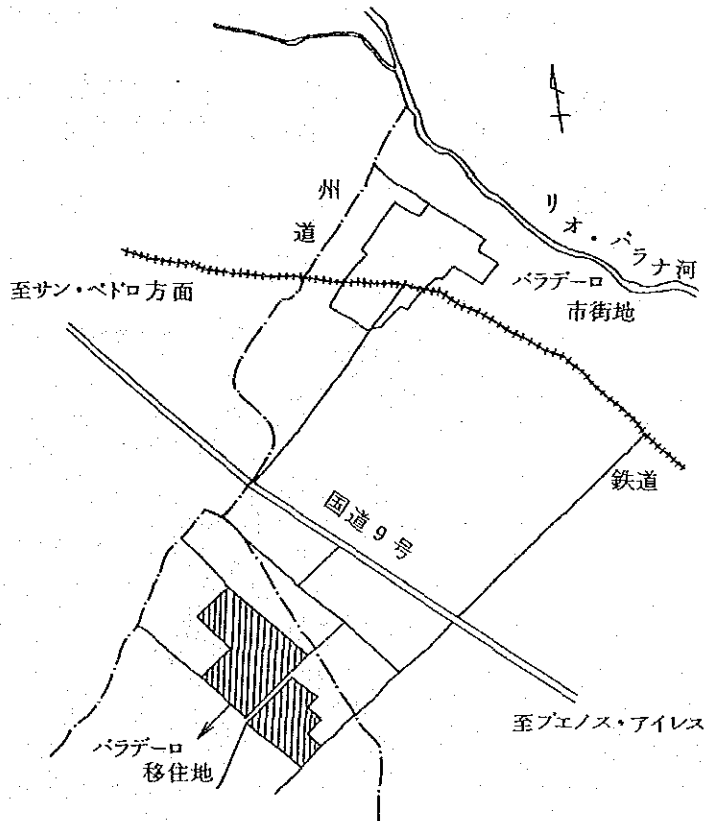
社 会 環 境	市場 地区内道路 整備状況 電気 飲料水 公共施設	<p>近傍都市状況</p> <p>バラデロー市 北東約 6km 人口約 3万人</p> <p>サン・ペドロ市 北西〃 30km 3.5万人</p> <p>サン・アントニオ・デ・アレコ市 南〃 55km 2.5万人</p> <p>カピトン・サルミエント市 南西〃 54km 2.5万人</p> <p>ベレン・デ・エスコバル市 東南〃 94km 4.5万人</p> <p>ブエノス・アイレス市 東南〃 143km 326万人</p> <p>ブエノス・アイレス市</p> <p>土道</p> <p>近くに高压線が走り、変電施設を設ければ導入は容易である。</p> <p>適用可能の水質である。</p> <p>対象地区は現在のところ不在地主が大半であり、一面のパンパ平原となっているため、公共施設の利用は近傍都市になる。</p> <p>バラデロー市の公共施設としては、</p> <p>①教育施設：幼稚園、小学校、中学校、高校（普通科・商業科・工業科）</p> <p>②医療施設：国立、州立の総合病院の他、個人開業医院もある。</p> <p>③その他：市役所、銀行、各種商店、娯楽施設等</p> <p>があり、日常生活に大きな支障はないと思われる。</p>					
	分譲 状 況	<p>総面積 407ha</p> <p>ロッテ面積 約15ha</p> <p>分譲条件 円建による分譲契約</p> <p>および価格 一括払 9,541千円(1ロッテ)</p> <p>分割払 頭金10% (954.1千円) 残額は4年据置5年分割払</p> <p>利息年3%</p> <p>分譲可能面積 392ha</p> <table border="1"> <tr> <td>分譲済面積</td> <td>未分譲面積</td> <td>道路市街地等利用地</td> </tr> <tr> <td>332ha(22ロッテ)</td> <td>60ha(4ロッテ)</td> <td>8ha</td> </tr> </table> <p>地権取得 土地代未完済のため23ロッテ全未取得</p> <p style="text-align: right;">1991年3月末現在</p>	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	332ha(22ロッテ)	60ha(4ロッテ)
分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地					
332ha(22ロッテ)	60ha(4ロッテ)	8ha					
農 業	主作目 経営形態 営農援護機関	<p>果樹</p> <p>梅と蔬菜、雑作を加えた複合経営、現在、他の果樹の導入について検討されている。</p>					

農業	営農指導	事業団アルゼンティン園芸総合試験場 INTA SAN PEDRO試験場
	金融機関	銀行, 事業団
	近傍地域の営農状況	当地域の周辺は、バンバ(湿潤バンバ)の中でも地味の豊富な典型的な果樹穀倉地帯である。当地域では大規模(約50ha以上)な穀物栽培(主としてトウモロコン, 小麦, コーリャン, ヒマワリ, 亜麻, 大豆等)と牧畜が主体である。桃, 柑橘等の栽培を行っている者もある。

地区略図



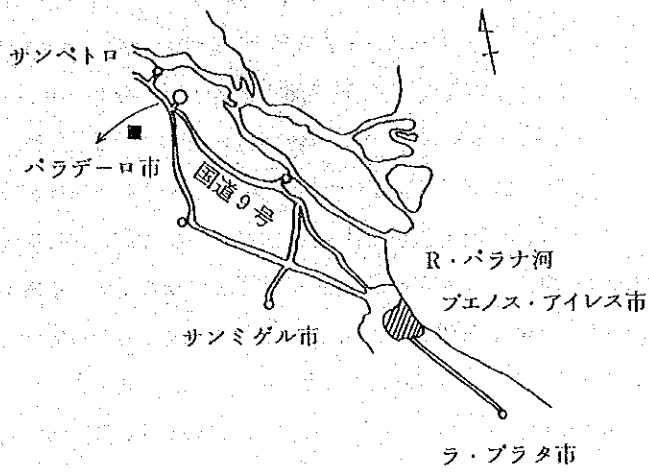
移住地略図



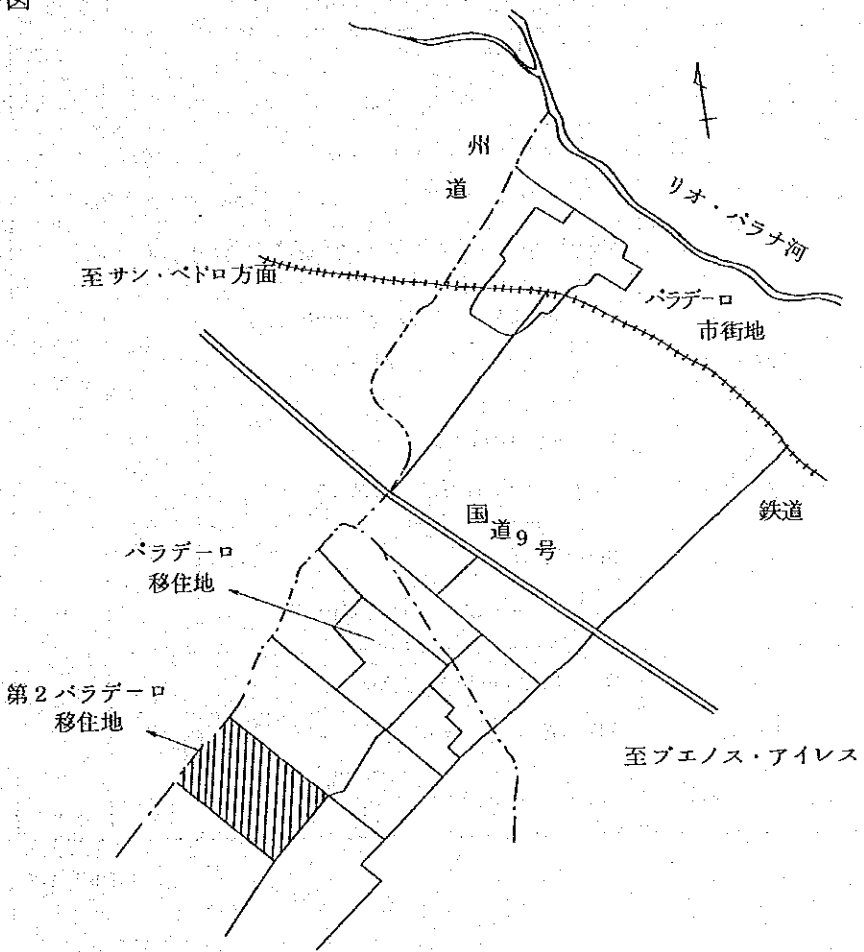
(10) 第2 バラデーロ移住地

所在地	ブエノス・アイレス州・バラデーロ郡 BARADERO, PARTIDO BARADERO, PCIA. DE BUENOS AIRES,		
面積	433 ha		
経緯	バラデーロ移住地と同様の目的・経緯で第12号移住地として、1984年3月本入植地を設置した。1985年8月から分譲開始。		
自然条件	地形 地質・土壌 気候 地下水	バラデーロ移住地(第11号)から南西方向に僅か1.5kmのところ到现在しているため、環境等同じ条件にあるので同移住地の項を参照	
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	同上 移住地内には特にないが、当事業団の園芸総合試験場果樹部門圃場設定中	
分譲状況	総面積	433 ha	
	ロッテ面積	約15 ha	
	分譲条件	円建による分譲契約。	
	および価格	一括払：8,359千円(1ロッテ) 分割払：頭金10%，残額は4年据置，5年分割払 利息年3%	
分譲可能面積	分譲可能面積	409.9 ha (27ロッテ)	
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積
		150 ha (10ロッテ)	259.9 ha (17ロッテ)
地権取得	土地代未完済のため10ロッテ全未取得。 1991年3月末現在		
農業	主作目 経営状態 営農援護機関 近傍地域の営農状況	バラデーロ移住地の項を参照。	

地区略図



移住地略図



(17) ブエノス・アイレス市近郊移住地

概 況

ブエノス・アイレス市は、ラ・プラタ河の右岸に展開し、凡そ半径50kmの範囲内をグラン・ブエノス・アイレスと称され、アルゼンティン総人口3,010万人のうち1/3に当る約930万人が居住している。このグラン・ブエノス・アイレスの周辺に、日本人の集団ならびに当事業団創設の小移住地が散在し、アルゼンティン国政府農事審議会(Consejo Agrario Nacional)、あるいはブエノス・アイレス州政府創設にかかる移住地、その他個人所有土地の分割分譲地がある。

日本人の主な栽培作物は花卉栽培であり、カーネーション、バラ、菊が多く、この花卉栽培は戦前、北部のエスコバル方面から発展し、戦後フロレンシオバレーラ・ウルキッサ方面にまで拡がりをみせ、小資本、小面積でしかも短期間に安定した収益を得られたため、戦後移住者で特に青年またボリヴィア、パラグアイ国からの転住者の再起あるいは独立に最も有利な業種として広まりをみせていた。

主な日本人集団地(参考)

移住地名または地区名	所在地	日本人入植者数		経営主体
		戸数	人数	
ウルキッサ (URQUIZA)	COLONIA URQUIZA MELCHOR ROMERO, LA PLATA 隣接の個人所有土地分譲地入植者を含む	90	470	農事審議会
ラス・バンデリータス (LAS BANDERITAS)	COLONIA LAS BANDERITAS CITY BELL, LA PLATA	15	74	州政府
ビジャ・エリサ (VILLA ELIZA)	VILLA ELIZA CITY BELL, LA PLATA	9	54	個人所有地の分割分譲地
ポルテーニョ (PORTENO)	PORTENO CITY BELL, LA PLATA	19	76	同上
サンタ・モニカ (SANTA MONICA)	EX ESTANCIA CHICA ABSTO, LA PLATA	20	98	同上
合 計		153	772	

1991年4月1日現在

以上の移住地は、ブエノス・アイレス市から凡そ50km概ね南部に位置し、戦後に開発された地帯で、ウルキッサ移住地を除く他の移住地は、雇用青年あるいはガルアペー移住地、またはボリビア、パラグアイ国からの転住者が相当数入植し、日本人集団地を形成してきた。

ウルキッサ移住地は、アルゼンティン国農事審議会の直営移住地であって、アルゼンティン人農業者の独立農創設とブエノス・アイレス市ならびにラ・プラタ市へ蔬菜の供給を目的として創設されたもので、アルゼンティン以外にICBM(欧州政府間移住委員会)に100ロッテを留保し、欧州からの移住者の入植を認めた。折しも、1961年(昭和36年)12月、フロンティン大統領訪日の際、アルゼンティン側は派米農業青年制度に着目し、同制度終了者を導入すれば、アルゼンティン農業開発に大いなる貢献を行なうであろうとの期待のもとに、特別措置として派米青年の入植を許可することとなった。最初は9戸(9ロッテ)であったが、日本側の追加申請により更に3戸(3ロッテ)が認められ、最終的には13戸が入植することとなった。

また本移住地には亜国人と同様に農事審議会に直接申請し、その選考を経て日本人が13戸入植し26家族で、日本人入植者は移住地の約半分以上を占め、スペイン、イタリア、ポルトガルその他各国系入植者で構成されるウルキッサ移住地では、大きな比重を占めるに至っている。

営農は蔬菜を目的として創設された移住地であるが、蔬菜の価格が極めて不安定なため、温室による花卉栽培が始まり、農事審議会もこれを認め、現在ではウルキッサを中心にした周辺地域は、大きな花卉生産地として発展しているものである。また、ウルキッサ移住地には、事業団の援助により、1980年4月に建設された公民館がある。

IV アルゼンティン事務所

団体名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所の別)及び電歴	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	増設専任職員の有無・内容・職員数等	機関紙の有無 名称並びに発行部数	備考
社団法人 亜細亜協同組合 COOPERATIVA DE COLONIZACION ARGENTINA L.T.D.A.	小松 レオナルド LEONARDO KOMATSU 任期 1年	(専) VENEZUELA No2130 (1095) CAP. FED. ARGENTINA TEL: 941-1075 942-6766	法定組合	組合員数 2093名	1955. 10. 28 取得	専用事務所 支配人 1名 職員数 2名 会計士 1名 開業青年 1名 管理人 2名	なし 但し記念誌 「拓殖」の冊子 発行	1. 日本人移住者の呼称手続及び その付帯業務 2. 生産物の購買・販売とその姓 産 3. 国際農業立会研修生の派来業務 4. 恩賜運管(ミシオンオネス州にお ける植林ジェムハ爾等の管理) 5. 監督官庁: 衛工省(法人監督局)
ニッパル農業協同組合 COOPERATIVA DE NIPPAR PROVISION PARA HORTICULTORES L.T.D.A.	寺 島 功 ISAO TERASHIMA 任期 1年	(仮) CORRINTES No4062 (1194) CAP. FED. ARGENTINA TEL: 86-6806	法定組合	組合員 500名	1980年 取得	職員数 2名 役員 12名	なし	1. 生産花卉委託販売業務 2. 組合員の必需品購買販売業務
社団法人 在亜日本植工会議所 CAMARA JAPONESA DE COMERCIO E INDUSTRIA EN LA ARGENTINA	芥 木 茂・治 SHIGEJI SAIKI 任期 1年	(専) LIBERTAD No836 20 piso (1012) CAP. FED. ARGENTINA TEL: 393-2104	(1) 個人 (2) 株式会社 進出企業 社員 現地、日系 企業及び貿 易商	142名 進出企業 30社 地場企業 50社	1949. 6. 22 取得	専用事務所 3名 職員数	月1回 150部	1. 日亜間の貿易振興並びに文化交 流 2. 日亜経済合同委員会の現地常設 連絡機関 3. 商社、日系企業の発展のための 情報提供
在亜日本人会 ASOCIACION JAPONESA EN LA ARGENTINA (邦人団体)	小磯 雄 三 EMILIO KOHATSU 任期 1年	(専) INDEPENDENCIA No732 (1099) CAP. FED. ARGENTINA TEL: 36-8192 26-8149 26-9904	(1) 個人 (2) 在留邦 人及び 日本人	2500名	1925. 12. 30 取得	会館、別館、運動 場、山の家等 職員数 5名	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 地方日会との交流 4. 各種催し(映画会、夜三会、冬 老会、運動会、ピクニック) 5. 1916年8月1日設立

団体名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所及び事務所の別)及び電話	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	海外専従職員の有無 の所属・内務・職員数等	提携社の有無 名称並びに発行部数	備考
ガルーペー日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE GARUHAPE (邦人団体)	古 庇 省 督 SHOGO FURUSHO 任期 1年	(電) COLONIA GARUHAPE DEP. L.G.SAN MARTIN, PROV. MISIONES 手紙:M-ESTRADA 285 (3334) PUERTO RICO PROV. MISIONES	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	68人	1986. 11. 24 取得	なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 村役場の仕事 3. 各種催し 4. 1963. 5. 1設立
ミシオネス日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE MISIONES (邦人団体)	菅 原 守 MAMORU SUCAWARA 任期 1年	(電) TUCUMAN №474 (3300) POSADAS, PROV. MISIONES 連絡先: 松村 TEL: 0752-26132	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	200人	1978. 10 取得	なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日産親善 3. 各種催し(映画会、敬老会、ピクニック、運動会、その他)
アルト・パラナ日本人会 ALTO PARANA NIPPON JIN-KAI (邦人団体)	小 崎 吾 一 GOICHI KOJIMA 任期 1年	(電) CASILLA DE CORREO №16 (3328) ALTO PARANA, PROV. MISIONES 連絡先: 三上 TEL: 0752-96131	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約100人	1981. 9. 12 取得	なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日産親善 3. 各種催し
エル・ドラー日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE EL DORADO (邦人団体)	石 井 正 信 MASANOBU ISHII 任期 2年	(電) CASILLA DE CORREO №474 (3386) EL DORADO, PROV. MISIONES 連絡先: 石井 TEL: 0751-23021	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約45人	なし	なし	なし	1. 会員の相互親睦 2. 日産親善 3. 各種催し
オベラ日本人クラブ CLUB JAPONES DE OBERA (邦人団体)	奥 田 リサ子 LIDIA OKUDA 任期 1年	(電) CASILLA DE CORREO №316 (3360) OBERA OSERA, PROV. MISIONES 連絡先: 比嘉 TEL: 0755-21050	(1) 個人 (2) 主として日本人 及び日系 人 とし、役 員は、彼 れが所属 する日本 人の国籍 も認めら れる	135人	1980. 5. 12 取得	なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日産親善 3. 各種催し (個人部による料理・民芸・洋装教室、青年部によるバレエ・ボール・サッカー教室)

団 体 名 (日本語名, 西語名)	代表者名及び所属団体名, 任期	連絡先 (専用事務所或事務所の別) 及び電話番号	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	諸施設専従職員の有無・内容・専従職員数等	機関紙の有無 名称並びに発行部数	備 考
チャコ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE CHACO (邦人団体)	森 岡 波 幸 TOSHIYUKI MORIZONO 任期 1年	(販) NECOCHEA №245 (3500) RESISTENCIA, PROV. CHACO 連絡先: 寺田 TEL: 0722-28713	(1) 邦人 (2) 日本人 及び日 系人	115人	なし	会館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日垂親善 3. 各報催し
コリエンテス日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE CORRIENTES (邦人団体)	伊 東 昌 吉 MASAYOSHI ITO 任期 2年	(専) RIVADAVIA 1753 (3400) CORRIENTES, PROV. CORRIENTES 連絡先: 二岡 TEL: 0783-64582	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	134人	1971. 10. 29 取得	会館・寄宿 (30人分) 敷地 9×45m 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日垂親善 3. 各報催し
サルタ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE SALTA (邦人団体)	岩 下 浩 七 JOSE IWASHITA 任期 1年	(専) ITUZAINGO №640 (4400) SALTA, PROV. SALTA 連絡先: 岩下 TEL: 087-212482	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約150人	1958. 5. 16 取得	会館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日垂親善 3. 各報催し
コルドバ日本人会 ASOCIACION JAPONESA EN LA PROV. CORDOBA (邦人団体)	水 南 侃 SUNAO MIZUTAMARI 任期 1年	(専) JUJUY №63 5000 CORDOBA, PROV. CORDOBA TEL: 051-43486	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約500人	1954. 4. 13 取得	会館 運動場 跡地 (日系人用) 専従職員 4名	会報 毎月 3回	1. 会員相互の親睦 2. 日垂親善 3. 1949年11月19日設立
ツクマン日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE TUCUMAN (邦人団体)	橋 本 一 正 KAZUMASA HASHIMOTO 任期 1年	(専) PASAJE JOSE A. MOLINA №1482 (4000) SAN MIGUEL DE TUCUMAN, PROV. TUCUMAN 連絡先: 斎藤 TEL: 081-240763	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約200人	1960. 5. 3 取得	会館 専従職員 なし	なし	1. 会員の相互の親睦 2. 日垂親善 3. 各報催し (映画会, 敬老会, ピクニック, 演芸会, その他) 4. 1938年7月9日設立

団体名 (日本語名、別番号)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所及び電話)	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	諸施設専従職員の有無・内容・職員数等	総協会の有無 名称並びに 発行部数	備考
南部メンドーサ日本人会 ASOCIACION NIPPON SUR DE MENDOZA (邦人団体)	城 竹 貞 MAKOTO TOTAKE 任期 1年	(印) COLONIA ANDEZ DIST. DE JAIME PRATS, DEP. SAN RAFAEL, PROV. MENDOZA. 手紙: C.C. No 92 (5620) G. ALVEAR PROV. MENDOZA TEL: JAIME PRATS No 13	(1) 個人 (2) 日本人 及び日系人	約90人	なし	専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日蓮親善 3. 各郷催し 4. 1968年6月1日設立
北部メンドーサ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE MENDOZA NORTE (邦人団体)	照 原 浩 七 JOSE TERUYA 任期 1年	(印) SAN MARTIN 1565 LAS HERAS, PROV. MENDOZA 連絡先: 照原 TEL: 061-303817	(1) 個人 (2) 日本人 及び日系人	約35人	1968. 12. 1 取得	会館 現在は閉鎖中 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日蓮親善 3. 各郷催し
サンタ・フェ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE SANTA FE (邦人団体)	柳 橋 フアソ JUAN KAKISU 任期 1年	(印) AV. LOPEZ Y PLANES No 3946 (3000) SANTA FE, PROV. SANTA FE TEL: 042-42436	(1) 個人 (2) 日本人 及び日系人 但し役員会の承認がなければ外国人も可	150人	1951. 11. 30 取得	会館 共同係地 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日蓮親善 3. 各郷催し(映画会、敬老会、ピクニック等) 4. 1953年5月25日創立
ロサリオ日本人会 ASOCIACION JAPONESA EN ROSARIO (邦人団体)	歌 垣 浩 七 JOSE ARAKAKI 任期 1年	(印) RIONDO No 1035 (2000) ROSARIO, PROV. SANTA FE TEL: 041-380739	(1) 個人 (2) 日本人 及び日系人、但し役員会の承認がなければ外国人も可	500人	1950. 12. 18 取得	会館 運動場 専従職員 1名	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日蓮親善 3. 文化の交流、各種催し(映画会、敬老会、敬老会、運動会、ピクニック) 4. 1949年5月1日設立

団体名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所及び電話事務所の別)及び電話番号	会員の国籍	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	諸施設専従職員の有無・内容・職員数等	機関紙の有無 名称並びに発行部数	備考
コマエエ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DEL COMAHUE (邦人団体)	松井 誠一 SEICHI MATSUI 任期 1年	(傳) CHACRA 37. CINCO SALTO PROV. RIO NEGRO 手紙: C.C. №227 (8300) PROV. NEUQUEN 連絡先: 森山 TEL: 0943-33160	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	120人	なし	なし 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し
マルデルプラタ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE MAR DEL PLATA (邦人団体)	北 島 敏 雄 TOSHIO KITAZIMA 任期 1年	(傳) MAGALLANES №3255 (7600) MAR DEL PLATA, PROV. Bs. As. 連絡先: 北島 TEL: 023-801370	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	230人	1981. 7. 30 取得	会 館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し
チリコイ日本人会 ASOCIACION JAPONESA EN CHIVILCOY (邦人団体)	折 本 英 也 YOSHIYA ORIMOTO 任期 2年	(傳) NECOCHEA S/N (6620) CHIVILCOY, PROV. Bs. As. 連絡先: 宮平 TEL: 0346-24046	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	25人	なし	会 館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し
西部クラブ SEIBU CLUB (邦人団体)	小 松 ネストル NESTOR KOMATSU 任期 1年	(傳) MENDOZA №270 (1708) MORON, PROV. Bs. As. 連絡先: 小松 TEL: 658-1525	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	60人	1979. 2. 28 取得	会 館 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し (映画会, パナー, 敬老会, その他)
ブルサール日本人クラブ CLUB JAPONES DE BURZACO (邦人団体)	新 見 健 勇 KENYU SHINZATO 任期 1年	(傳) BOULEVARDO COLON №885 (1852) BURZACO, PROV. Bs. As. TEL: 299-1107	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約1,000人	1952. 5. 8 取得	会 館 日本語学校 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 日系子弟への日本語教育 4. 各種催し (運動競技大会, 映画会, 敬老会等様々な行事) 5. 1951年8月2日設立

団体名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用機、事務所別)及び電話番号	会員の資格	会員数	法人格取得の年月日及び取得年月日	諸施設専従職員の有無・内容・職・員・数・等	機関誌の有無 名称並びに発行部数	備考
エスコバル日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE ESCOBAR (邦人団体) (旧ベレンクラブ)	多和田 茂 昭 SHINSHO TAWADA 任期 1年	(専) CESAR E. DIAZ No.1178 (1625) BARRIO PARQUE BELEN DE ESCOBAR. PROV. Bs. As. 連絡先: 芥田 TEL: 0223-22791, 25727 ABONADO 2919	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	458人	1956. 6. 1 取得	会 館 運動場 日本習字学校 (含会室、図書館 会談室) 専従職員 1名	機関誌 ベレン 年6回 200部	1. 会員相互の親睦 2. 日語講習 3. 地域社会との交流 4. 文化活動、日語講習 5. 日系子弟の日語教育 6. 各種催し
メルロ日本人クラブ CLUB JAPONES DE MERLO (邦人団体)	七 海 正 之 MASAYUKI NANAMI 任期 1年	(専) AV. PATRICIO Y RIVASOLA (1716) LIBERTADO. PROV. Bs. As. 連絡先: BLANCO TEL: 0220-42971	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人 但し、役員 会の承認が なければ不 可		1959. 4. 3 取得	会 館 日本語学校 運動場 子供遊園地 専従職員 1名	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日語講習 3. 各種催し (パサー、映画会、 各種運動競技会、演芸会、歌 老会、その他) 4. 1951年11月1日設立
マルコス・パス日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE MARCOS PAZ (邦人団体)	森合場 エクトル ECTOR KISHABA 任期 1年	(専) MONTESQUIEU Y URQUIZA PARTIDO DE MARCOS PAZ. PROV. Bs. As. 連絡先: 勢理啓 TEL: 0220-71287	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	130人	1988. 4	会 館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日語講習 3. 各種催し
ノルテクラブ CLUB DEL NORTE (邦人団体)	上 木 義 基 YOSHIKI UEKI 任期 1年	(専) RUTA 197 km12 (1613) INGENIERO PABLO NOGUEZ PART. GRAL. SARMIENTO, PROV. Bs. As. 連絡先: 佐々木 TEL: 660-2778	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約100人	1978. 3. 23 取得	会 館 (含日語教室) 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日語講習 3. 各種催し

団体名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所区事務所別)及び電話番号	会員の構成	法人格取得の有無及び取得年月日	施設設備等従員の有無・内容・職員数等	機関紙の有無名称並びに発行部数	備考
ベジャ・フロークラブ CIRCULO CULTURAL BELLA FLOR (邦人団体)	池田 幸弘 YUKIHIRO IKEDA 任期 1年	(専) ESTAPETA YAPEYU (1613) INGENIERO PABLO NOGUEZ PART. GRAL. SARMIENTO, PROV. Bs. As. 連絡先: 鈴木 TEL: 0320-80354	(1) 個人 (2) 日本人及び日系人	現在申請中	会館 運動場 土地 専従職員 なし	なし 一紙、記念誌 「移民誌」を発行	1. 会員相互の親睦 2. 日系子弟への日本語教育 3. 日亜親善 4. 各種催し (運動競技大会、映画会、演芸会等)
サルミエント日本人会 ASOCIACION JAPONESA SALMIENTO (邦人団体)	安岡 ラファエル RAFAEL ANNA 任期 1年	(専) ROQUE SAENZ PEÑA №5050 (1665) PART. GRAL. SARMIENTO, PROV. Bs. As. TEL: 0320-22654	(1) 個人 (2) 日本人及び日系人	1988. 取得	会館 日本進学校 運動場(含むプール) 専従職員 1名	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日系子弟への日本語教育 3. 日亜親善 4. 各種催し(映画会、演芸会、敬老会、各種運動競技会、定例試合等、花卉栽培者研究会) 5. 1983年10月1日設立合併
フロレンシオ・ヴァレラ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE FLORENCIO VARELA (邦人団体)	東 江 一 夫 KAZUO AGARIE 任期 1年	(専) QUINTANA M89 (1888) FLORENCIO VARELA, PROV. Bs. As. 連絡先: 原直 TEL: 255-1548	(1) 個人 (2) 日本人及び日系人	1978. 3. 5 取得	会館 日本進学校 運動場 専従職員 1名	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各邦人団体との交流 4. 各種催し(映画会、映画大会、敬老会、ピクニック、運動競技大会、その他) 5. 1960年設立
ラ・カピージャ日本人会 ASOCIACION JAPONESA EN LA CAPILLA (邦人団体)	上 間 善 則 YOSHINORI UEMA 任期 1年	(専) LA CAPILLA (1888) PART. FLORENCIO VARELA, PROV. Bs. As. TEL: なし	(1) 個人 (2) 日本人及び日系人	なし	会館 運動場(借地) 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し(運動会、敬老会、ピクニック、その他) 4. 1955年8月頃設立
ラ・プラタ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE LA PLATA (邦人団体)	村 上 辰 男 TATSUO MURAKAMI 任期 1年	COLONIA URQUIZA MELCHOR ROMERO (1903) PART. LA PLATA, PROV. Bs. As. TEL: なし	(1) 個人 (2) 日本人及び日系人	1978. 6. 29 取得	会館 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し(定例歌合戦、ゲートボール大会等) 4. 1963年設立

団 体 名 (日本語名、西語名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所、事務所、及び電話)	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	施設、専従職員の有無、内容、専任職員、専任職数等	機関紙の有無、名称並びに発行部数	備 考
コロニア・プラタクラブ CLUB COLONIA LA PLATA (邦人団体)	小林 宗生 MUNEO KOHAYASHI 任期 1年	ESTAPETA ABASTO (1903) ABASTO PART. LA PLATA, PROV. Bs. As. TEL: 0229-91242 連絡先: 小坂	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約140人	現在申請中	会 館 (含日本語教室) 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し(運動競技会、盆 どり、バザー等) 4. 1976年10月設立
サンタ・モニカ日本人会 ASOCIACION JAPONESA DE SANTA MONICA (邦人団体)	椎 葉 翠装雄 KESAO SHIIBA 任期 1年	(専) ESTAPETA ABASTO (1903) ABASTO PART. LA PLATA, PROV. Bs. As. 連絡先: 前川 TEL: 393-6098	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約120人	なし	会 館 (含日本語教室) 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し(運動競技会、敬老 会、バザー等) 4. 1970年1月設立
東部ラ・プラタ日本人クラブ CLUB JAPONESA DEL ESTE LA PLATA (邦人団体)	森 山 秀 秋 HIDEAKI MORIYAMA 任期 1年	(専) CALLE 115/N (1896) LOS PORTEROS CITY BELL PART. LA PLATA, PROV. Bs. As. 手紙: C/C Ng9 (1896) COLONIA LAS BANDERITAS CITY BELL PART. LA PLATA PROV. Bs. As.	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約120人	なし	会 館 (含日本語教室) 運動場 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 各種催し(運動会、敬老会、 バザー等)
プラテンセ日本人会 ASOCIACION JAPONESA PLATENCE (邦人団体)	玉 城 ホルヘ JORGE TAMASHIRO 任期 1年	(専) CALLE 65 Ns1019 (1900) LA PLATA, PROV. Bs. As. 連絡先: 神谷宅 TEL: 021-48100	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	約280人	1986. 5. 5 取得	会 館 専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日亜親善 3. 日系子弟への日本語教育 4. 各種催し 5. 1984年5月20日設立
亜国日系センター CENTRO NIKKEI ARGENTINA	新 堀 ロベルト ROBERTO ARAKAKI 任期 2年	(専) BULNES 841 (1176) CAP. FED. ARGENTINA TEL: 86-7774	(1) 個人 (2) 日本人 及び日 系人	全園 567人	現在申請中 1986. 4 取得	事務所 専従職員 1名	機関誌 セントロニッケイ 隔月1回 500部	1. 日亜文化交流 2. 日系一般情報センター

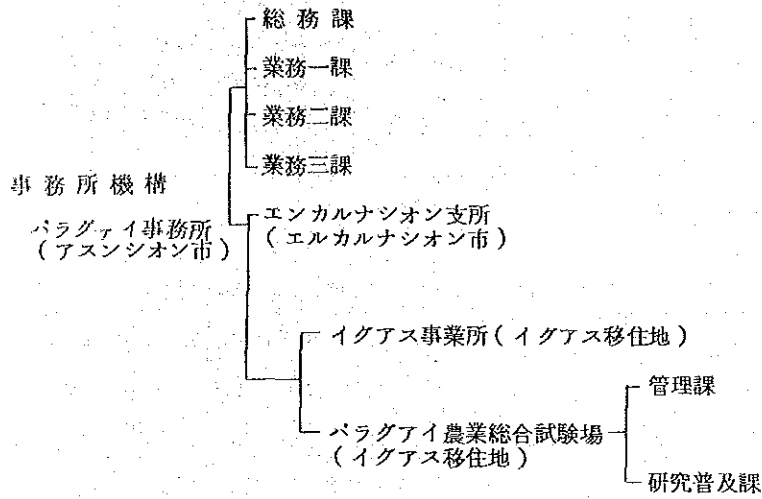
団体名 (日本語名、伯辞名)	代表者名及び所属団体名、任期	連絡先(専用事務所の別)及び電話番号	会員の資格	会員数	法人格取得の有無及び取得年月日	随施設等指定の種別・内容・職員数等	機関紙の名称並びに発行部数	備考
ネコチエ日本人会 CLUB JAPONES DE NECOCHEA (邦人団体)	山村 直 SUNAO YAMAMURA 任期 1年	(仮) AV. 59 No 3381 (7630) NECOCHEA, PROV. Bs. As. 連絡先: 山村 TEL: 0262-23586	① 日本人 ② 日本人及び日本人	66名	なし	専従職員 なし	なし	1. 会員相互の親睦 2. 日産親善 3. 各種催し 4. 1987年設立

パラグアイ共和国

V パラグアイ事務所

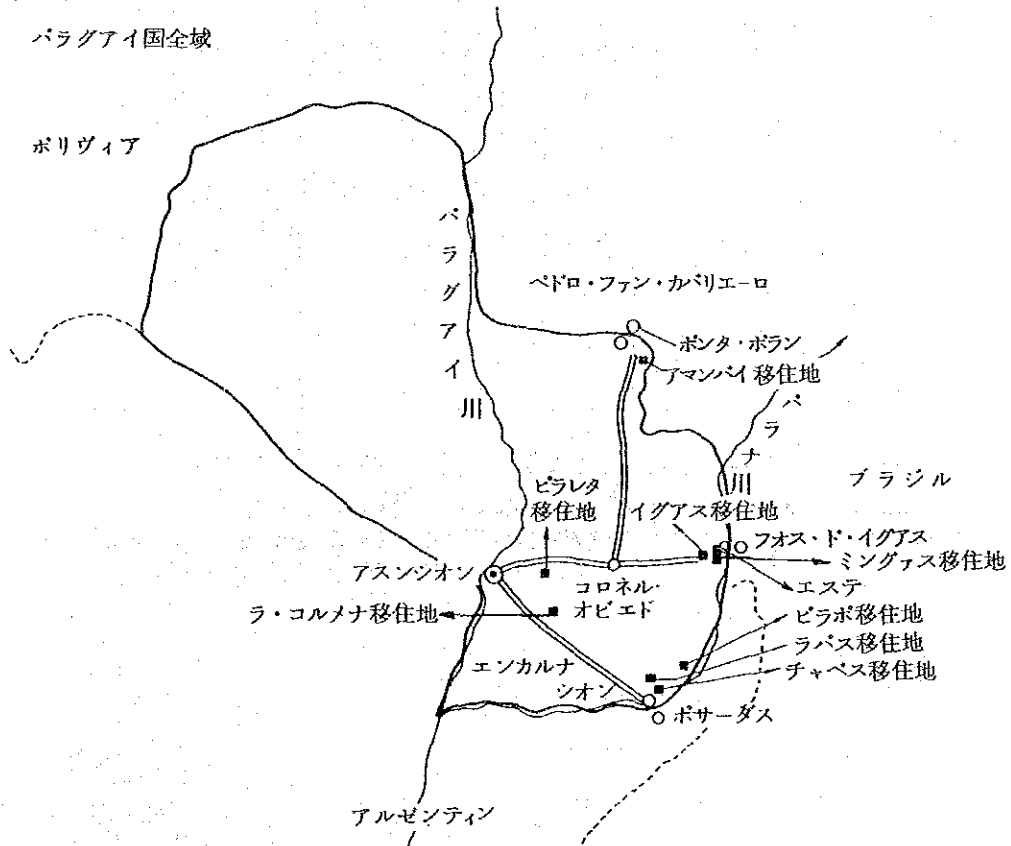
パラグアイ共和国

V パラグアイ事務所



管轄地域

パラグアイ国全域



1. 基礎指標

首都：アスンシオン

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
km ² 406,752	1811.5.14	立憲 共和制	カトリック (70%)	スペイン語(69%) グアラニー語 (12%)	スペイン系とグアラニー 一族との混血(97%) 白人(2%)その他 (1%)	(Gs) Guarani

1. 人口、人口密度、人口増加率

人口	年度											
	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	
人口(千人)	3,068	3,168	3,268	3,370	3,473	3,576	3,681	3,788	3,922	4,039	4,157	
人口密度(人/km ²)	7.4	7.8	8.0	8.3	8.5	8.7	9.0	9.3	9.6	9.9	10.2	
人口増加率	3.3	3.3	3.17	3.10	3.04	2.99	2.94	2.90	3.03	2.98	2.92	

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY 「Cuentas Nacionales No. 26」

2. 産業別就業人口(1989年)

産業	人口	人口(人)	構成比(%)
農業・牧畜		599,838	42.9
鉱業及び採石業		3,022	0.2
工業・建築業		298,618	21.4
電力・水道・衛生事業		4,548	0.3
商業及び金融		186,881	13.4
運輸・通信		45,757	3.3
サービス業		203,792	14.6
その他		54,037	3.9
計		1,396,493	100.0

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY 「SINTESIS DE LA ECONOMIA EN CIFRAS」

3. 国民所得

所得	年度	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
国民所得総額(百万Gs)		622,808	705,800	909,190	1,168,791	1,537,208	2,003,790	2,731,164	3,818,950
1人当り国民所得(Gs)		184,811	203,254	254,248	317,520	405,810	510,862	676,171	918,616

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY 「CUENTAS NACIONALES
A PRECIO DE GUARANIES CORRIENTES」

4. 国内総生産（1989年）

項目	金額	総生産額(百万Gs)	構成比(%)
農 業		906,623	17.6
畜 産		311,799	7.4
林 業		137,752	2.7
狩 猟 ・ 漁 業		5,624	0.1
鉱 業		21,160	0.5
工 業		785,589	16.2
建 設		259,256	5.4
電 気		96,610	2.5
上 下 水 道		15,228	0.4
運 輸 ・ 通 信		174,369	4.6
商 業 ・ 金 融		1,262,709	26.3
公 共 一 般		172,525	4.5
住 宅		91,852	2.6
そ の 他		367,304	9.3
計		4,608,400	100.0

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY, 「CUENTAS NACIONALES
NO. 26, PRODUCTO INTERNO BRUTO, APRECIO DE GUARANIES
CORRIENTES」 PAG.15 18

5. 物 価 指 数 (アスンシオン市)

1980=100

項目	年度	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
平	均	138.1	166.1	208.0	274.0	333.7	410.6	517.2	714.8
食	糧	133.9	172.6	220.1	316.0	391.2	484.2	582.9	853.4
住	宅	135.0	144.5	169.7	193.1	229.7	275.2	368.2	494.3
織	維 品	142.9	181.0	240.4	319.5	379.5	462.4	576.0	763.8
そ	の 他	145.5	174.6	220.3	284.7	347.1	432.1	561.9	735.4

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY, Dpto. DE ESTUDIO ECONOMICOS.
「INDICE DE PRECIO DEL CONSUMO」

6. 輸 出 入 構 成 (1989年)

単位：千US\$, %

輸 出			輸 入		
品 目	金 額	構 成 比	品 目	金 額	構 成 比
木 材	31,617	3.1	食 料 品	19,790	3.0
肉 製 品	96,123	9.5	飲 物・タバコ	45,516	6.9
皮 革	24,031	2.4	燃 料・潤滑油	115,003	17.4
タ バ コ	2,152	0.2	紙	17,750	2.7
工業原料・穀物	392,531	38.9	化学品・薬品	42,542	6.4
果 樹・野 物	4,484	0.5	自動車及び部品	61,717	9.3
砂 糖	6,865	0.7	織 維 製 品	15,690	2.4
植 物 油	16,550	1.6	農業機械及び部品	12,009	1.8
綿 織 維	306,927	30.4	鉄 鋼 製 品	19,650	3.0
精 油	24,692	2.5	金 属 製 品	7,550	1.1
油 粕	10,463	1.0	機 械 類	211,645	32.0
コ ー ヒ ー	40,345	4.0	そ の 他	91,910	14.0
そ の 他	52,660	5.2			
計	1,009,440	100.0	計	660,777	100.0

出典：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY (BOLETIN ESTADISTICO)

2. パラグアイへの日本人移住の歴史

パラグアイへの日本人集団移住は、1934年ブラジルで外国移住制限法が制定され、ブラジルへの移住が制限されたことがきっかけとなり、パラグアイの許可をとり、アスンシオン市東南13.2kmのラ・コルメナに土地を購入、1936年8月第一陣11家族81名が入植したことに始まる。ラ・コルメナ移住地には、第二次大戦により移住が中断される迄の間123家族790名が入植した。

戦後は、1954年ラ・コルメナに9家族が入植することにより移住が再開され、またパラグアイ東南部のエンカルナシオン市に近い国営チャベス入植地にも入植した。1954年に設立された日本海外移住振興株式会社（国際協力事業団の前身）は、当時の日本国内の海外移住熱に対応して1955年フラム移住地、1959～64年に亘り、アルト・パラナ移住地、1960年にイグアス移住地とあいついで移住地の取得造成を進めた。一方、1956年～58年にかけて、パラグアイ北部、ブラジル国境に近いベドロ・ファン・カバリエーロ市近郊のアメリカ人経営のコーヒー園に雇用農として173戸が入植するなど、1950年後半から1960年前半にかけ、パラグアイ移住は盛況を極めた。この間において、わが国は移住協定の締結（1959年）により30年間に亘り85,000人の日本人移住者の受入枠を得たが、わが国の経済の急速な成長に伴い移住者の送出しは激減し、今日に至っている。

なお、戦後当国へ9,612名が移住した。

追記：各移住地のうち、次の2移住地名が、行政区画の変更等の事由により、平成3年度から改称されることになった。

- フラム移住地 → ラバス移住地
- アルトパラナ移住地 → ビラボ移住地

3. 移住地所在地域の概要

(1) イタプア県の概要

県内移住地	ラバス移住地, チャベス移住地, ビラボ移住地
概要	<p>イタプア県は16,625km²を有し、平均標高は200m、高地で350m、低地100mというなだらかな起伏を持った地形である。平均気温21.8℃で亜熱帯に属し、夏は暑く多湿、冬は涼しく乾燥する。年間を通じて昼夜温度較差は大きい。降霜は6～8月に多く冬作物を制限するが、パラナ河沿いの地方は無霜期間が長い。雨量は年間1,700～1,800mmで比較的年間を通じて平均して分布し、農業に好適な条件を与えている。</p> <p>県面積のうち85% (14,000km²)は農用地に適し、そのうち現在の耕地面積は9,333km²である。総人口は385千人、パラグアイ国の約9.6%に当る、県庁の所在地はエンカルナシオン市で人口約50千人、同市を含むエンカルナシオン郡をはじめ18郡 (distrito) がある。</p> <p>1800年代末からヨーロッパ系移住者が入りパラグアイ国の中でも最も多くの外国人移住者を受け入れており国際色豊かな県である。県下には宣教活動基地の遺跡がJESUS, TRINIDAD, SAN COSME等に見られ、1609年から1768年のイエズス会神父の引き揚げまでの約160年間に文明化と開発の基礎が築かれた。</p>
主要都市等	<p>現在舗装道路はアスンシオン、エンカルナシオンを結ぶ国道2号線に並びにエンカルナシオン～エステ間の国道6号線であり、アスンシオン、エンカルナシオン、エステの三大都市を結ぶ、いわゆる三角プランの国道6号線は世銀の借款により一部大林組の手により工事着工され、1985年2月に舗装が完成した。また、1990年、エンカルナシオン市とアルゼンティン国ボサーダス市を結ぶ国際大橋が開通した。</p> <p>県下各地に電話公社 (ANTELCO) 出先があり、電話は各移住地まで通じている。農産物の輸送は主として、国際大橋を通り直接アルゼンチン港へ輸出して船積みされている。</p> <p>エンカルナシオン市はパラグアイ第3の都市で同市人口約8万人 (1990年)、アスンシオンから国道1号線365kmで結ばれ、パラナ河をはさんでアルゼンチン国ボサーダス市と対面している。</p> <p>イタプア県を中心とする南部パラグアイ地方の綿花、煙草、マテ、大豆、小麦等の農産物、木材、皮革等の集積地輸出港として発展してきた。ボサーダス市との間に架橋で結ばれ、アルゼンティン経済の影響が町の活況を左右する国際都市である。</p>

(2) アルト・パラナ県の概要

<p>県内移住地</p>	<p>イグアス移住地, ミンガス移住地</p>
<p>概要</p>	<p>アルト・パラナ県はパラグアイ国の東部に位置し、パラナ河をはさみ、ブラジルと国境を接している。面積は14,895km²あり、人口は20万人(1984年)である。</p> <p>アルト・パラナ県は、パラグアイ国の中で最も肥沃な地帯であり、政府はこの地域での農業及び農業関連産業の開発を最優先目標にあげており、その農業生産量も多い。</p> <p>同県はイグアスの滝、イタイダム及びその副産物である大人造湖、モンダイ峡谷、アカライ峡谷、ニャクンダイ峡谷、共和国の湖、グワヤキ国立公園等の景勝地、民俗ダンス、民族音楽等豊富な観光資源に恵まれ、今後の観光インフラストラクチャーの整備に伴って内外からの観光客が急増している。</p> <p>また、1966年に架けられた友好の橋はブラジルのFoz do Iguacu とエステ市とを結びさらに大西洋岸のパラナグア港と舗装道路で結ばれており、貨客の国際流通におけるパラグアイ国の東側の玄関として果す役割も大きい。</p>
<p>主要都市等</p>	<p>ソウダ・デ・エステ市(旧ストロエスネル市)はアスンシオン市からブラジルに通じる国際道路327kmの国道に新しくできた町で人口9.1万(1984年)、パラグアイ第2の都市である。近年パラグアイとブラジル両国間のあらゆる面での交流を反映し、急速に発展、エンカルナシオン市をしのぐ活気のある都市である。また、イグアス瀑布(ブラジル領とアルゼンチン領にまたがっている)をひかえた観光都市でもある。</p>

4. 移住地の概要

(1) ラパス移住地

所在地	イタプア県ラパス移住地 DISTAITO LAPAZ, DEPARTAMENTO DE ITAPÚA, PARAGUAY	
面積	15,952 ha	
経緯	<p>旧日本海外移住振興会社が、1956年（昭和31年）に現地のフラム土地会社所有のうち15,952 haを分割購入して造成した移住地である。 （購入価格 26,600 千円）</p> <p>この地域への邦人入植は、1955年（昭和30年）フラム土地会社の分譲地に、6家族が入植したのがはじまりである。</p> <p>その後、1956年（昭和31年）末には広島県沼隈町を中心とした分村的移住、更には、1957年（昭和32年）に、高知県大正町を中心とした数ヶ町からなる集団移住が行われる等、5か年間で371戸を迎え、1960年（昭和35年）代にほぼ満植となった。しかし、その後経済の低迷、土地不足等により約半数が国内他地区、アルゼンティン等へ転住し、残留者がその跡地を購入して面積拡張を計り今日に至っている。</p> <p>入植者のうち、一部はアベレア地方のロシア人移住地の古い耕地を入手し落ち着いたものもある。現在131戸が入植定住している。</p>	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	<p>パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高くなり移住地内は比較的起伏に富み、波状形を呈している。</p> <p>移住地内には、数本の小川が流れており、標高は最高200m、最低180mで平均標高は190mである。</p> <p>玄武岩を母岩とした風化土壌で、一般にテラロシャといわれ、赤褐色を呈し、表層は埴壌土または埴土、下層は埴土で地味は肥沃である。地層は低湿地では薄く、斜面にあっては礫層岩盤が散見される。土壌構造がよく発達しており透水性は粘土含量が多いにもかかわらず一般に良い。pHは5.5程度の弱酸性である。</p> <p>高地は亜熱帯植林（クタンブー、カナフィスト、ラオ等）が続き、低地は湿地性灌木林及び耐湿草木が繁茂している。</p> <p>有用材はすでにその殆どが資材として伐り出されておりその量は僅かである。</p> <p>最高平均気温29.5℃、最低平均気温15.3℃、年間平均気温22.6℃である。乾期は12月～2月の最夏期、雨期は9月～11月の春先から初夏とされているが、特に明瞭な区分はない。年間平均降雨量は2,000mm程度。</p> <p>降霜・降雹等</p> <p>降霜：冬期7回～12回（強度の降霜は年2～3回）</p> <p>降雹：9月～11月の春期に2～3回軽度の降雹あり。但し10年に1度程度の頻度で大降雹あり。</p>

社 会 環 境	主要都市への 交通手段	エンカルナシオン市から移住地入口まで、国道6号線で18km、ここから中心まで約27kmである。国道は、アスファルト完全舗装されている。 移住地とエンカルナシオン市間には毎日10往復のバス便が運行されている。(移住地内は幹線を走行。)
	市場	エンカルナシオン市が最も近い市場であり、殆どどの農産物はエンカルナシオン市で取引されるが、一部青果等は、アスンシオン市、または、アルゼンティン側のボサードスまで、出荷、販売される。
	地区内道路 整備状況	チャベス移住地よりラパス移住地への幹線及び地区内幹線、支線を併せ、道路延長は約180kmに及んでいる。幹線道路砂利舗装されている。
	電 気	1988年6月に電化が完了した。
	飲 料 水	市街地は上水道、その以外の農家は井戸水を利用している。
	公 共 施 設	学校(スペイン語教育) 1988年3月31日現在 (西語) ラパス中学校(教員数5人 生徒数58人内、日系人35人) サンタ・ローサ小学校(" 2人 " 48人内、 " 22人) 富士小学校(" 3人 " 116人内、 " 28人) ラ・パス小学校(" 6人 " 172人内、 " 38人) (日本語教育) (1991年3月末現在) ラパス中学校(教員数3人 生徒数30人) ラ・パス日語小学校(" 6人 " 72人) 富士日語小学校(" 4人 " 19人) 診療所 現地採用医師 1人 看護婦 4人 判事事務所 公民館 倉庫 日本人会・農協等 組合事務所、倉庫、宿泊所、種子貯蔵用サイロ

入 植 戸 数 と 人 員 の 推 移	年 度	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963
	戸数(戸)		47	99	111	37	77	1		1
	人員(人)									
	年 度	1964	1965	現地入植者数						
戸数(戸)			83							
人員(人)			443		1988年4月現在					

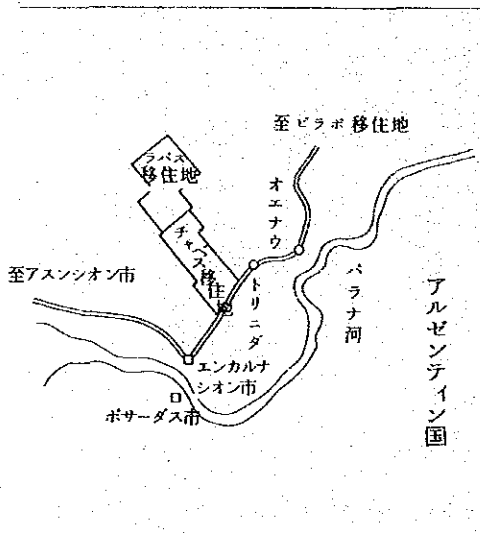
主な出身県名：高知、愛媛、広島、北海道、福岡、徳島、宮城、熊本、東京、鹿兒島

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
日本人	居住	131	798	105	
	非居住	0	—	—	
	計	131	798	105	
ブラグエイ人	居住	60	350	—	

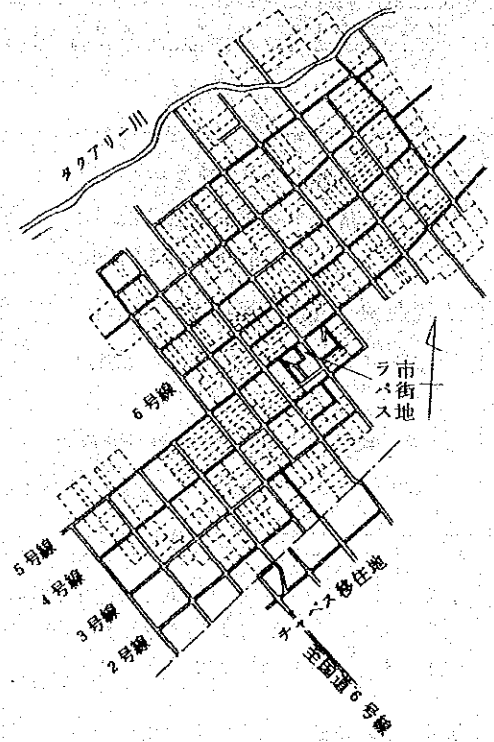
1991年3月現在

分譲状況	総面積	15,952 ha
	1 ロ ッ テ 面積	25 ha (農耕地) 2,500 m ² (商住区) 28,000 m ² (小農園) 191,606 m ² (牧場区)
	分譲状況	農耕地：全て分譲済 市街地：全て分譲済
農業	地権取得	農耕地：全ロ ッ テ 取得 市街地： ”
	主作物形態	大豆、小麦 大豆、小麦、雑作を主体に若干の畜産、米作等である。 大型雑作経営を目標としており、機械化が進んでいる。
	農機具普及状況	コンバイン1.2台 トラクター2.7台 トラック(大型)1.3台 (1990年度農家経済調査)
農業	家畜飼養頭数	肉牛(30頭) (1990年度農家経済調査)
	営農指導	移住地内には営農指導機関はないが、当事業団ブラグエイ農業総合試験場及びエンカルナルオン支所が指導に当っており、また必要に応じて国側関係当局の指導協力を受けている。
	金融機関	事業団、農協国立勧業銀行(BNF)、市中銀行
農業	その他	かつて主幹作物は油桐であったが、低価が長く続いたことにしびれをきたしたことから、手っとり早く雑作地を増やすため、これを伐採してしまった者も多く、現在の主体は大豆と小麦の二毛作に変わってきた。 大豆は、もともと日本人移住者がこの国で初めて企業化した作物であるが、イタプア地方の肥沃な土壌によく成育し、その品質の良さと相俟って、バ国における植物油生産の伸びと共に需要が旺盛となり、また機械化による経営規模も拡大され、作付面積は年々増加している。

地区略図



移住地略図



(2) チャベス移住地

所在地	イタプア県ヘスス・イ・トリニダ郡プレジデンテ・フェデリコ・チャベス COLONIA PRESIDENTE FEDERICO CHAVES, DEPARTAMENTO DE ITAPUA, PARAGUAY	
面積	68,000 ha	
経緯	<p>1953年、バ国政府が貧民救済と農業国として繁栄をはかることを目的として、国内の有望農業地帯であるイタプア県内の民有地を買収し、当時の農業改良局管理のもとに創設されたもので、時の大統領の名前を記念してFEDERICO CHAVES 移住地と命名した。</p> <p>1952年、有限責任ブラジル拓植組合が、ラ・コルメナ移住地に日本人120世帯導入の枠を取得したが、入植適地が殆んどなかったため受入不能の状態であった。当時在バの笠松、石橋氏等は、この状態の打開をかねて、当チャベス移住地に日本人を導入すべく引受機関として「日芭拓植組合」(戦後邦人移住者受入れの組合)を設立し、並行して120家族(各戸当り20ha)受入の枠を取得した。そこで先ず第1陣として1953年に、ラ・コルメナ移住地より日本人家族8世帯(戦前移住者)が転住した。その後、1954年に日本から第1陣6家族を受入れ、以来1959年まで入植した。この地区は他のフラム、アルト・パラナ等の事業団造成の移住と異り日芭混合の移住地でもある。</p> <p>現在は35世帯に減少しているが転耕の主な理由は土地不足によるものである。</p>	
自然環境はラパス移住地を参照		
社会環境	主要都市への交通手段 地区内道路整備状況 公共施設	エンカルナシオン市から移住地まで国道6号線(完全アスファルト舗装)で20km。交通は至便 移住地内幹線は砂利舗装、支線は盛土 学校 チャベス小学校(西語)教師3名、生徒数96名(内、日系人6名) ウルグァイ小学校(西語) 2名、 54名(0名) (事業団建設) (1991年3月末現在) 組合事務所兼倉庫、公民館(1979年3月完成) 共同販売所

社 会 環 境	組合・自治体等	派出所 カピタン・ミランダ警察管轄
	その他	中学校はラバス中学に寄宿またはエンカルナシオン市内の中学校、高校に学生寮又は下宿通学している。 医療は、ラバスの事業団診療所または、オエナウのドイツ人病院及びエンカルナシオン市の国立病院を利用している。
	市場 電気 飲料水	ラバス移住地(200ページ)参照

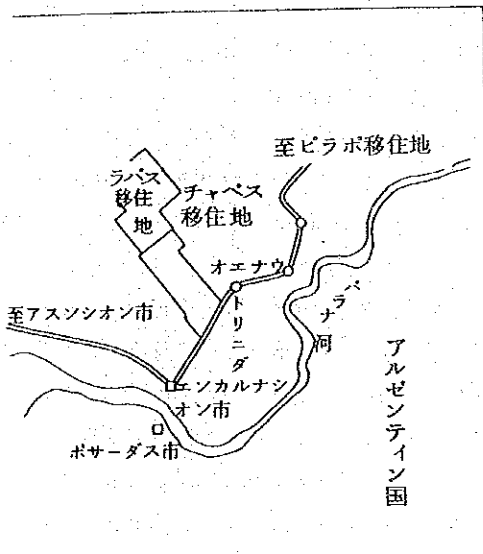
入 植 戸 数 と 人 員 の 推 移	年 度	1954	1955	1956	1957	1958~1964	1965	1966	1967	1968~1975	1976
	戸 数 (戸)	9	99	21	2		1		1		1
	人 員 (人)	62	645	147	10		4		6		1
主な出身県名：北海道、和歌山、宮城、山口、熊本、香川、福島											
1988年4月現在											

入 植 世 帯 数	入植数 区 分	入植世帯数		農家戸数
		戸 数	人 員	戸 数
	日 本 人	35	185	35
	ブラグアイ人	220	1,500	-
1990年12月現在				

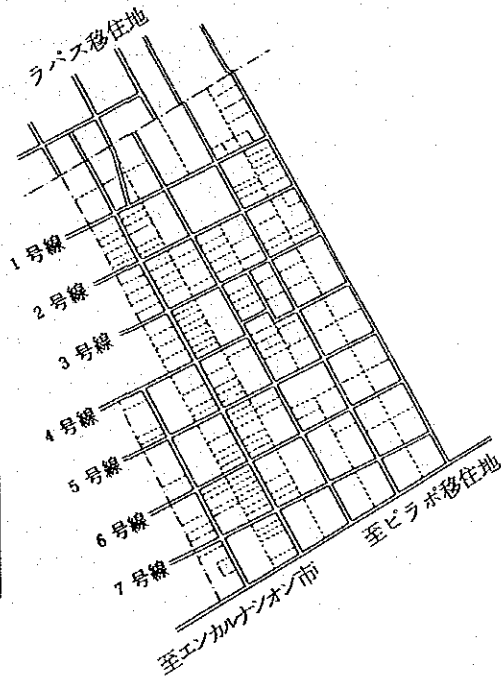
分 譲 状 況	総 面 積	68,000 ha			
	分譲可能面積	65,000 ha (残ロツテなし)			
	1 ロツテ面積	20 ha			
	分譲条件及び価格	-			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用	除 地
		65,500 ha	0 ha	2,500 ha	0 ha
1990年12月現在					

農 業	主 作 目	大豆, 小麦
	農機具普及状況	コンバイン1.2台, トラクター2.6台, トラック1.3台 (1990年度農家経済調査)
	家畜飼養頭数	肉牛(11頭)
		(1990年度農家経済調査)
	形 態	ラパス移住地を参照
	管農援護機関	
	管農指導	
	金融機関	
	主作物物 販売取扱機関	

地区略図



移住地略図



(3) ピラポ移住地

所在地	イタプア県ピラポ移住地 DISTRITO DE PIRAPO (COLONIA PIRAPO) Dto. DE ITAPUA PARAGUAY								
面積	84,217 ha								
経緯	<p>事業団の前身日本海外移住振興株式会社は、パラグアイ国第2の移住地として、ラバス移住地の満植にともない、1958年3月アルカスツル植民会社より約23,095 haを購入し、これに加えて翌年6月その北部に隣接するカレンズ地区さらに10月ピラポ地区の南部に接するアカカラジャ地区の私有地を購入し、現在の移住地全域の購入を完了した。1963年8月2日、アカカラジャ地区に、日本から第一陣移住者として26家族が入植した。</p> <p>今日のピラポ移住者は、南部パラグアイにおける大豆、小麦の一大生産地に発展、これら関連企業が原料を求めて移住地内およびその周辺に進出し、操業している。</p> <p>現在入植定住者は279戸であり、ほぼ満植の状況である。1990年市制が制定された。</p>								
自然環境	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="197 865 385 1058">地形</td> <td data-bbox="385 865 1239 1058"> 大波状の比較的起伏に富む地形を示し、全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけ傾斜して低くなっている。標高は最高34.8 m最低9.9 m、地区内最大の標高差は25.0 mであるが、全般的には比較的傾斜の多い地形といえる。(平均標高約22.0 m)。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="197 1058 385 1406">地質・土壌</td> <td data-bbox="385 1058 1239 1406"> 当地区の高位部では、土層は一般に厚くテラロソシア(玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌)が5 m~10 mに達し、低平な地域(ピラポ川マンドビジュ川の沿岸など)では、一般にテラロソシアの土層薄く、傾斜面にあっては表面近くに礫層、軽石または岩盤が散見される。なお概して森林下は膨軟、土壌構造も良く発達して角塊状を成し、そのため透水性は粘土含有が高いにも拘らず一般に良い。土層は深く、通常は深く、通常4~5 m以上であり表層は腐植3%位、pHは5~6程度の弱酸性で、可溶性の磷酸の含有は低い、加里は一般に富む。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="197 1406 385 1580">植生・林相</td> <td data-bbox="385 1406 1239 1580"> 高地は林層が厚く、中には周囲6 m樹高20 m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタンブ・グワイカ、カナフィスト等が多く、用材としては有名なラバーチヨを始めセドロ、ローネグロ、インシエンソがあるがその量は少ない。グワタンブ・グワイワは軟材であるが、家具材・板材等に用いられる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="197 1580 385 1750">気候</td> <td data-bbox="385 1580 1239 1750"> 一般に6~9月の冬期が雨期、10~5月の夏・春が乾期とされているが特に明確な区分はできない。 冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって、日温度較差は10~15℃冬期の平均降霜日数は7~15日位と見られる。 </td> </tr> </table>	地形	大波状の比較的起伏に富む地形を示し、全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけ傾斜して低くなっている。標高は最高34.8 m最低9.9 m、地区内最大の標高差は25.0 mであるが、全般的には比較的傾斜の多い地形といえる。(平均標高約22.0 m)。	地質・土壌	当地区の高位部では、土層は一般に厚くテラロソシア(玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌)が5 m~10 mに達し、低平な地域(ピラポ川マンドビジュ川の沿岸など)では、一般にテラロソシアの土層薄く、傾斜面にあっては表面近くに礫層、軽石または岩盤が散見される。なお概して森林下は膨軟、土壌構造も良く発達して角塊状を成し、そのため透水性は粘土含有が高いにも拘らず一般に良い。土層は深く、通常は深く、通常4~5 m以上であり表層は腐植3%位、pHは5~6程度の弱酸性で、可溶性の磷酸の含有は低い、加里は一般に富む。	植生・林相	高地は林層が厚く、中には周囲6 m樹高20 m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタンブ・グワイカ、カナフィスト等が多く、用材としては有名なラバーチヨを始めセドロ、ローネグロ、インシエンソがあるがその量は少ない。グワタンブ・グワイワは軟材であるが、家具材・板材等に用いられる。	気候	一般に6~9月の冬期が雨期、10~5月の夏・春が乾期とされているが特に明確な区分はできない。 冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって、日温度較差は10~15℃冬期の平均降霜日数は7~15日位と見られる。
地形	大波状の比較的起伏に富む地形を示し、全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけ傾斜して低くなっている。標高は最高34.8 m最低9.9 m、地区内最大の標高差は25.0 mであるが、全般的には比較的傾斜の多い地形といえる。(平均標高約22.0 m)。								
地質・土壌	当地区の高位部では、土層は一般に厚くテラロソシア(玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌)が5 m~10 mに達し、低平な地域(ピラポ川マンドビジュ川の沿岸など)では、一般にテラロソシアの土層薄く、傾斜面にあっては表面近くに礫層、軽石または岩盤が散見される。なお概して森林下は膨軟、土壌構造も良く発達して角塊状を成し、そのため透水性は粘土含有が高いにも拘らず一般に良い。土層は深く、通常は深く、通常4~5 m以上であり表層は腐植3%位、pHは5~6程度の弱酸性で、可溶性の磷酸の含有は低い、加里は一般に富む。								
植生・林相	高地は林層が厚く、中には周囲6 m樹高20 m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタンブ・グワイカ、カナフィスト等が多く、用材としては有名なラバーチヨを始めセドロ、ローネグロ、インシエンソがあるがその量は少ない。グワタンブ・グワイワは軟材であるが、家具材・板材等に用いられる。								
気候	一般に6~9月の冬期が雨期、10~5月の夏・春が乾期とされているが特に明確な区分はできない。 冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって、日温度較差は10~15℃冬期の平均降霜日数は7~15日位と見られる。								

自然環境		年間降雨日数は60～90日、雨量は1,500～2,000mmであって当国最多雨地域に属している。
社会環境	<p>主要都市への交通手段</p> <p>地区内道路状況</p> <p>市場</p> <p>電気</p> <p>飲料水</p> <p>公共施設</p>	<p>県都エンカルナシオン市まで舗装道路、オエナウ、オブリガード経由72km。小型バスで約3時間であり、1日8往復のバスの便が運行している。</p> <p>幹線・支線とも盛土で良好に整備されている。なお、主要幹線は砂利舗装となり雨天の場合でも通行可能となっている。</p> <p>エンカルナシオン市と対岸アルゼンティン国ボサードス市及びアスンシオン市が主な市場である。</p> <p>昭和60年10月に電化が完了した（事業団助成167,046千円）</p> <p>全戸井戸使用で通常数mから12～13m掘削すると良質で豊富な水が出る。又モーターによる揚水ポンプの利用が目立っている。市街地のみ上水道施設完工（1988年6月）</p> <p>教育関係 （西語教育） アカラジャ23km小学校（教師4、生徒137、内、日系人38）、ピラボ23km小学校（教師4、生徒141、内、日系人38）、ピラボ13km小学校（教師4、生徒136、内、日系人57）、ピラボ市街地小中学校（教師19、生徒455、内、日系人194）が設置されている。（1991年3月末現在） これに教員宿舎が附帯している。また、ピラボ23km地区に小学校宿舎が設けられ、移住地開発の拡大に伴い、学校から遠方に入植した移住者の子弟を収容している。</p> <p>（日語教育） 移住地内に、小学校4カ所、中学校2カ所が設けられ、他に、カトリック系幼稚園（市街地）がある。毎週土曜日または日曜日を決め、1日6時間（国語、音楽、体操等）の授業が行なわれている。校舎は、父兄会が建設したもの或いは公民館が利用されている。ピラボ第1小学校（教師6、生徒40）、ピラボ第2小学校（教師3、生徒42）、ピラボ第3小中学校（教師7、生徒100）、ピラボ中央小学校（教師6、生徒50）、ピラボ中央中学校（教師3、生徒75）（1991年3月末現在）</p> <p>医療関係 ピラボ診療所が市街地に設置されている。 医師2名、看護婦7名、常時救急車（運転手）が待機している。 診察室、レントゲン室、分娩手術室等完備、入院可能である。</p> <p>治安関係 移住地内4カ所の警察所および判事事務所（市街地）が設置され、常時パトロールが行なわれるなど治安体制は良好である。</p>

社 会 環 境	日本人会，農協等
	日本人会運営として，中央公民館（市街地にあり，事業団が1973年3月建設した。）ならびに各地区に公民館がある。 農協運営は，本部事務所，種子貯蔵用サイロ，貯蔵サイロ，また下部組織として実行組合等の施設がある。
その他	農牧省直轄のピラポ2.3kmサイロ，農林業開発訓練センター及び農業機械化センター。 共同墓地，電話局，郵便局
主なる現地商社	矢口商会（タイワン桐，油性農産物取引他） 現地商社穀物取引出張所（サイロ設置）数カ所，農機具等代理店

入 植 戸 数 と 人 員 の 推 移	年度	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967~1975	
	戸数	82	168	40	18	17	2	1		
	人員	437	912	213	95	94	11	4		
	年度	1976	1977							
	戸数	1	1							
	人員	5	7							

1991年3月現在

入 植 世 帯 数	入植数 区分	入植世帯数		農家戸数
		戸数	人員	戸数
	日本人	279	1,552	215
	パラグアイ人	390	2,170	-

1990年12月現在

分 譲 状 況	総面積	84,217 ha						
	分譲可能面積	82,042 ha	1. 農耕地		81,450 ha (残ロツテなし)			
			2. 市街地		592 ha (")			
	ロツテ面積	小口10 ha, 小型30 ha, 大型60 ha, 大口300 ha, 小農園級2 ha						
	分譲条件および価格	市街地 商業区1等 2,500m ² 一括払 50千円 分割払頭金50% 据置なし 5年分割払 利息5% 居住区1等 " " 38千円 " 50% " " " " 2等 " " 25千円 " 50% " " "						

分 譲 状 況	分譲状況	小農園2等 25,000m ² " 25千円 " 25% " " "
	地権取得	" 3等 25,000m ² " 25千円 " 25% " " "
農 業		1988年4月末現在
	分譲状況	農耕地：残ロツテなし 市街地：残ロツテ 31 (33 ha)
	地権取得	農耕地：1,740 ロツテ 市街地： 390 "
		1991年3月末現在
	主作目 形 態	大豆, 小麦, 台湾桐 大豆, 小麦等を基幹作物とした大型機械化雑作経営が中心。
	農機具普及状況	コンバイン 0.8台, トラクター 2.0台, トラック 1.2台 (1990年度農家経済調査)
家畜飼養頭数	肉牛(8頭) (1990年度農家経済調査)	
営農支援機関 営農指導	移住地内には営農指導機関はないが, 事業団パラグアイ農業総合試験場, 事業所が指導に当っており, また必要に応じバ国側関係当局の指導, 協力を受けている。	
金融機関	事業団, 農協, アスンシオン銀行等	
主作物販売 取扱機関	農協および現地商社によって, 殆んど販売取引が行なわれている。	

